

523
99

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

始



大谷光瑞著

對支橫議

並海外投資論

東京民友社發行



支
橫
議





講演壇に立てる大谷光瑞師

寫筆穂百福平

523-99

對支橫議目次

一	臨城案善後の餘波	一
二	列國の眼症	八
三	和平統一と廢督裁兵	一五
四	各省自治と聯省自治	二二
五	中央集權は絶對不可	二六
六	支那和平の根本策	三〇
七	華府會議の失敗と米の責任	四二
八	日匪親善	四六
九	列國養匪を競ふ	五五

目

次

一

一〇 支那を分裂獨立せしめよ 六〇

一一 列國外交の無標準 六四

一二 列國と匪類擁護 六九

一三 先づ滿洲の獨立を望む 七四

一四 歸する所分裂獨立の外なし 七九

一五 國運の新興を期せよ 八四

一六 海外に投資せよ 八七

一七 有産遊民の所置 九三

一八 修學年限を短縮せよ 九七

一九 天災と人災 一〇二

二〇 震災と諸外國 一〇七

二一 所謂新思想を排す 一〇九

二二 因果の大法 一一三

大谷師を紹介す(蘇峰學人) 一一五

海外投資に就て

一 緒言 一二四

二 海外投資の利 一二八

三 農業投資 一三八

四 工業投資 一六四

五 商業投資 一九〇

六 結論 二〇〇



對支橫議

大谷光瑞

一 臨城案善後の餘波



匪徒橫行

嚮きに對支意見を述べて以來、既に半載、支那の現状は百轉千轉休止するの期なし。唯夫れ一貫せるは、匪徒の横行せると、政令の行はれざるとあり。曹錕大總統に撰ばると雖も、その力決して中華民國を統裁するに足らず、漸く直隸派の武力の及ぶ限りに過ぎず。東北に西南に命を奉せざるもの相繼ぐ。是れ現状なり。

一 臨城案善後の餘波

外交團の
一大失敗

本年春季に土匪の横暴なるや。急行列車を襲ひ、外人を拉し去り、中外皆目を張り耳を聳つ。而して外國は盡く腕を扼して北京政府の不信を責む。米國の如きは、その憤るや、北京政府の承認を撤すべしと云ふ。而して時を遷し日を消し、龍頭蛇尾、二百餘日を費して其の罪を問ふ能はず。近時の外國政府は、往昔と異なり皆國歩艱難にして、事を東亞に構ふるを欲せず、始めに怒り後に忘る。是を以て北京政府の翻弄する所となり、一百餘日を経るも如何ともする能はず。特に英國政府の如きは鐵道保衛に關聯し運輸經濟の兩點に至るまで外人の使用を強要せり。是の事たるや重大なりと雖も、鐵道保衛とや、趣を異にし、況や問罪と何等關する所なし。是れ外交團の一大失敗にして、先づ問罪を嚴にし、支那政府をしてその罪を自覺せしめ、責任者をして完全なる懲戒を受けしめば可なり。鐵道の保衛の

如きは既に第二の問題なり。運輸經濟の如きは又別問題なり。然るに是れを混同し、是れを強要せんとす、その不可なるや、素よりその所なり。

我帝國政府は最後まで保衛も運輸經濟も支那の自主權たるを以て、是を強要するの不可なるを論せり。然れども終に英國政府の壓力を蒙り、我政府は英國政府の前に屈伏し、自己の正論を拋棄し、英國の僻論に屈從せり。是を以て英國政府は外交團の意見を統一し、僻論を提げ北京政府を壓迫せり。北京政府は我帝國政府の如く容易に英國政府に屈伏するものに非ず。故に今日に至るまで事終に成らず。而して外國は問罪をなす能はざるを以て、土匪は増々猖獗し、爾來外人の捕はれ賠償を強要せらるゝもの三十餘名に上れり。而して例により、空文の抗議を北京政府に提出し口に呶々するのみ、一も完全なる問責をなす能はず。

我が正論
の僻論
に屈す

我帝國も四川に於て汽船を襲撃せられ、船長を殺害せられ、船員兩名捕虜となる。是を北京政府に責むるも、毫も効果なく、帝國軍艦は四川の水路に遊弋するも、如何ともする能はず、怨みを呑み黙々たるのみ。特にその同時に東京震災を蒙りしを以て、帝國の内に於てすら是を知るものなく、暗黙の間に猶捕虜の厄を免る能はず。伊太利の宣教師の如きは土匪の捕虜となり、官兵の追撃を蒙り、是を拉し去るに便ならざるや、射殺し去れり。その殺さるに當りてや、我の殺害せらるゝも要償をなす勿れ、寧ろ國家の行政統一を勸告せよと云へり。如此きは一の宗教者の言として實に美談なれども、國家とし、外國政府として如此き軟弱の言を以て糊塗し去るべきものに非ず。然れども現在の伊太利としてアドリアチックに於ける問題の十萬分の一の實力だも支那に施す能はず。寧ろ死者の遺言を發表し、宗教

者の態度を賞讃し、自から慰むるの他あるべからず。

如此く到處外人は侮辱を蒙り、殺害を受くと雖も、外國政府は如何ともすべからず。怨みを呑みて黙々たるか、或は宗教者の遺言を飾り自ら慰むるの外は、唯茫然自失せるのみ。是れ皆臨城案事件の善後始末を誤り、外國政府機宜を得ず、責むべきを責めず、要むべからざるを要めたるに起因し、その失敗の責任者は英國政府なりとす。

然れども英人は必ずしも英國政府と同一なる謬見を有するものに非ず。上海の英國新聞の如きは、問罪の正論を當時喧傳せり。その云ふ所によれば、今日の土匪横行の最大責任者は曹錫吳佩孚なり。この兩人に嚴罰を加ふるに非ざれば土匪終熄せずと。是れ實に正論なり。二百餘日を経るも、この正論は確立動すべからず。直隸、山東、河南、安徽、湖北は皆匪巢なり。

この間を鎮守せる軍隊を提げ、或は長城の附近に、或は福建に、江西に、四川に、湖南に無用の討伐を行ひ、中原を空虚ならしむ。是を以て土匪到る處起らざるなし。この失計を敢てし、而も害毒を内外に及ぼし、猶自己の私權を張らんとするは、曹錕吳佩孚等なりとす。然るに彼等は私權を鷗張し、終に贈賄を敢てし、大總統を羸ち得て、元首の假裝をなせり。

事茲に至るや、臨城事件の劫掠の如きは忘れたるが如く、外國公使は盛裝してその前に起拜せり。臨城の事起るや暴雷の如く怒號し、總統の撰なるや、芳艸の春風に舞ふが如し。前に虎の如く終りに羊の如し。況や同罪の第一責任者をして元首とし、是を容認するが如きは、實に近世稀れに見る諸外國の耻辱なりとす。自から辱められ、猶叩頭す、宛も乞丐の富者に對するが如し。是れ現在の外國使署の曹錕等に對する状態なり。その侮る所

列國公使
の醜態

となるや宜なり。

我帝國は臨城事件に關する所なしと雖も、外國政府の醜態に倣ひ、同じく乞丐を學べり。是れ皆外國政府の臨城事件にその執る所を誤りしに起因し、今日の耻辱を蒙むるに至れり。

二 列國の眼症

外人自か
ら侮る

英國人の
内障眼

語に曰く、「汝に出づるものは汝に還る」と、支那土匪は決して外人を侮辱せるものに非ず。外人自から侮るを以て土匪も亦外人を侮るに至る。因果の大理は毫髪も爽はざるなり。不肖嚮きに中華民國を中華匪國と云へり。是の事たるや正論にして、今日増々その國號の適當なるを表現せり。曩日數ば云ふが如く、外國人は支那の實狀を知らず。外國人中最も支那の事情に通ずるを英國人なりとす。是に次ぐを我帝國なりとし、他は皆蒙昧暗夜の如し。而して英人を以てするも、過去三十年前の英人に比し、最近は全く失明せり。過去三十年前は支那を以て英國の重大なる要地となし是に旅行し、是を研究するもの識者相繼げり。然るに今日に於ては英國政

府に其人なく、特に歐洲の問題に忙殺せられ、外交は「ラウサンヌ」會議以來、年毎に失敗を重ね、近世一百年間無比の失敗外交を現せり。對支諸問題の如き、亦顯著なる失敗外交の一端なりとす。宛も離婁の明を有せし目が内障の眼病に罹るが如し。外觀異なる所なしと雖も、明と不明と甚しき相違あり。英國の外交及び東亞細亞の經營の如きは皆この内障眼の失明より來れるものなり。故に百に一の僥倖として成功あるも、九十九は失敗なりとす。

我帝國は常に不肖の痛論するが如く、支那に對して全く盲目なり。而も盲目を盲目なりと信せず、宛も色盲の如く色を辨せざるも自己は色を辨せりと誤信せり。その云ふ所一として眞を得る能はず。而も恐る處なく、耻づる處なく、公然世上に發表し、講演に、新聞に、雜誌に、書籍に刊行せ

嗚呼色盲
日本人

り。不肖常に支那に居住し、その云ふ所を見聞するに一として眞を得る能はず。唯僅かに眞相を傳ふるは揚子江の水流の濁濁せるに驚けるのみ。故に支那に長く居住せるものは何人と雖も愚妄を笑はざるなしと雖も、我帝國に於ては色盲の相依り相助くるを以て、眞偽の辨別なし。不肖常に眞相を我帝國に告ぐるも、一として聞く所とならず、用ゆる所とならず、皆不肖の云ふ所を以て偽なりとなせり。偽を以て眞なりとなせば、眞必ず偽なりとなさざるべからず。黑白は同じからず。氷炭は相容るべからず。今不肖重ねて支那の現状を云ふとも、恐らく色盲國民の信ずる所となる能はざるべし。然れども將來の爲め數千言を費さざるべからず。不肖の言の用ひらるゝと用ひられざると不肖に於ては得喪兩ながら無し。然れども不肖の言を用ひざれば、我帝國は支那の現状に對して色盲を免る能はざるなり。

閉むべし
不の瞞目

如此く英國の内障眼と我帝國の色盲とを除けば、他は皆閉目せり。米國の如きは唯耳に聞くのみ。所謂ヤングチャイニースの言ふ所のみを聞き、東洋の文化國なりと信じ、平和の維持と民主主義の實行と相須ち、東洋の米國なりと信せり。是れ盲者の前に乞丐の鶉衣百結汚穢萬狀而も音樂を奏するが如し。盲者は音樂のみを聞き、佳人の盛装せるものなりと想像せり。閉目せるものは物を見るべからず。鶉衣百結たると羅綾錦繡たると、汚穢萬狀たると窃窈嬋娟たると、兩ながら別なし。聞く所は唯音樂のみ。ヤングチャイニースの英語を囁り、基督教を信するが如く假冒するは皆音樂なり、米人本國に於てこの音樂を聞き、窃窈の佳人と羅綾錦繡を想像せり。故に時に臨城事件の如き凶辱出づるや、半信半疑未だ全く乞丐の眞相を知らず。その多くは是れ軍閥の惡政の賜なりと信せり。是れ至當なり。然れ

ども軍閥の惡政を除き去るも、是によりて乞丐が一躍佳人に變ずるものに非ざるなり。是れヤングチャイニース等の米人の盲目を欺き、彼等の好まざる處を以て自己の醜陋を蔽はんとするに過ぎず。

米人の最も嫌ふ所は帝國主義なり、軍閥なり。最も喜ぶ所は民衆主義なり。基督教なり。その嫌ふ所を以て自己の國家の弊害に擬し、その喜ぶ所を以て國家の前途に充つ。是を以て盲目の米人は乞丐の音樂を以て嬋娟の佳人の奏する所なりとせり。米人の期する所は、民衆主義の共和政體行はれ、軍閥を滅し、各人英語を操り、全國基督教を奉じ、到處青年會を設け阿片を禁じ、飲酒を廢し、蓄妾を止め、廢娼を行ひ、賭博を禁じ、米人を師とし庶政を舉げ身を修め家を齊ふるにあり。ヤングチャイニース等の米國に在るや、支那は早晚米國の宣教師等の努力と各人の基督教を奉ずるに

狂瀾至極
の米人

より、如此く期すべしと云へり。在支那の宣教師等は自己の効績を舉げんが爲に、又上の如く米國に所屬せる教會に報告せり。是を以て米人等皆この美言の音樂を聞き、その奏する所の何人なるを知らず、必ず佳人の奏する所ならんと信せり。若し夫れ上に記するが如き治績を中華民國に於て舉ぐるの期は、恐くは米合衆國の土崩瓦解し去るの期よりも更に遼遠ならんのみ。況んや基督教道徳は歐人に適當すと雖も支那人に適せず。支那に於ては孔子の定むる所の固有の完全なる道徳あり、何を苦しんで基督教道徳を輸入の要あらんや。孤裘は冬に宜し葛衣は夏に宜し。

基督教道徳を以て支那を改良せんとするは、三伏盛夏に孤裘を襲ひ、その豪富を傲るが如し。是を知らずして行ふ故に愚者と云ふ。その愚を知らずして是を行ふ故に盲者と云ふ。是を以て一億餘萬の米人は盡く是れ盲者

三強國盲
目の賜

なり。

是を以て是を知るに、英人の内障眼と、日本人の色盲と、米の瞎目と、三強國の盲者が支那に對し各般の關係を生ぜり。故に土匪に侮辱せられ、北京政府に調弄せられ、債務は履行せられず、條約は蹂躪せられ、怨を呑んで屈伏し口に唯だ嗷々するのみ。口に唯嗷々するは猶可なり。問罪の責任者が賄賂を以て恣に大總統となるや、叩頭屈膝その前に起拜せり。如此き奇辱は到底開目者の堪忍すべき所に非ず。幸に盲目の賜により、辱を辱とせず、平然是を行へり。盲者蛇に驚かずと、是れ勇者なるに非らざるなり。

三 和平統一と廢督裁兵

和平統一
の夢

更に笑ふべく驚くべきは、三強國の盲人政府は猶ほ和平統一を夢想し、南北和合し一國家を造るべしと信せり。我帝國に於ても大多數は如此く信せり。英米も亦然り。支那事情に通せりと自稱し他人も亦如此く信ずる人にして、猶和平統一を以て支那救済の根本義なりと信せり。その云ふ所によれば、今日の内亂は軍閥私兵を擁し、各地方に蟠居し、中央の政令を奉せず、互に離合集散し黨同伐異するによる。茲に督軍を廢し、各省自治し、中央是を統轄せば和平成るべしと云ふ。何ぞその云ふ所の迂なるや。恐くは前清の遺老にして、年耄耄に近き人と雖も、今日如此き迂論を唱へざるべし。不肖は如此き迂論を擊破するの要なしと雖も、盲者は是を音樂なり

廢督裁兵
論の流行

と聞くを以て、是にその不可なるを辯せざるべからず。

往昔の外國の攻撃點は督軍と軍兵にあり、故に廢督裁兵の四字は、支那政客の口にせざるなし。此事我帝國に於ける日支親善の如し。是を口にせざれば人に非ざるが如く感せり。而して其事の成らざるや、又日支親善に同じ。是を以て狡猾なる督軍は自から督軍の稱を廢し、或は總司令と號し或は軍務事宜と號し、その名を改めその實を變せず。裁兵とは中央より軍餉を獲て、是を以て私腹を肥さんと欲し、百人を八十人たらしめ七十人たらしめ、その數を減じ名けて裁兵と云ふ。その裁撤せられたる兵士は流氓となり、土匪となり、良民を苦しめ、その衣食の資を勒索す。是を以て官費により獲たる軍餉を私腹に充て、その差を土匪たらしめ、良民より不當課税を徵するに過ぎず。

兵と匪と
異名同質

故に廢督裁兵とは耳を掩ふて鈴を盗むの類なり。不肖は常に云ふ、軍閥の私兵を裁撤すれば全國皆土匪たるべしと。今日正にその實現をなせり。兵を裁して兵、匪に變じ、匪を撫して匪、兵に變ず。兵と匪と、その名別にしてその實同じ。宛も空氣と水の如し。是を熱すれば氣たり、是を冷さば水たり。要するにその被服の相異のみ。然るに往昔は猶被服を異にせり。最近は兵にして匪服あり、匪にして兵服あり、兩者別つべからず。唯その識別法は、兵とは法律と名くる正當の法を、地方官吏の不當使用により、徵集せられたる財貨に依り養はるゝを云ひ、匪とは任意に直接良民より徵收せる財貨により養はるゝを云ふ。その良民より徵集せらるゝは二者別あるに非ず、寧ろ匪の徵收法の直截簡明なるを便となせり。山東の一部の如きは、匪首に税金を奉り、その掠奪を免れ、而も他の匪類の襲撃を防げり。

而して地方官吏の租税を徴するや、一村是を拒で納入せず、地方官吏是を責むるや、村民皆曰く、我等匪首に納税し、その保護を乞へり。是により保護の實既に擧る。何を苦しんで更に租を納め、官兵の保護を要せんや。是に至りては官匪兩ながら別なし。先んずれば人を制すと、知言なり。匪先んじて官後る。故に租は匪に輸して官に輸せず。村民の欲する所は保護にあり、官たると匪たると素より論ずる所に非ざるなり。

裁兵却て匪を増す
是の如く兵匪別なし、裁兵とは増匪の義なり、兵裁せらるれば匪増す。寧ろ法律と名くる假面を蒙り、秩序と稱する假衣を装ひたる兵を以て、やゝ匪に勝れりとなすべし。是を以て是を見るに、廢督裁兵は支那を和平統一に導くに非ずして、混亂無政府に陥るゝ法なり。盲目外人はその匪の性を究めずして、唯兵のみを云ふ。故にこの愚論を生ず。

不正規兵と
不正規兵と

軍閥の地方に蟠居せるを責むるは、是又兵匪の別を知らざるによる。最近河南の實例に徴するに、督軍張福來の兵と京漢鐵道護衛の靳雲鵬の兵と河南の土匪を掃蕩せり。官兵強ければ匪散じ、官兵西せば匪東し、官兵是を野に逐はゞ山に竄れ、山を狩らば野に下る。官兵勇なるに非ず、土匪怯なるに非ず。官兵と名くる正規兵は、中央より武器彈藥を受くるを以て、その乏しきを感じず。土匪と名くる不正規兵は武器彈藥に缺くる所あるを以て、正々の帥、堂々の陣を逆ふる能はず。故に鳥竄獸奔し、眞に奇兵を以てその備へざるを襲ふのみ。而してその策の盡くるや、外人を拉し去り、是れが賠償として金錢及び武器を以てし、中央政府を強要す。而してその事成るや、招撫と號し匪變じて兵となる。而して猶常に良民より不當徵集を休めず。是を以て督軍の地方蟠居を廢さば、全國皆匪集たるべし。

官匪角逐

督軍は私兵を擁し、自己の駐屯地を疆封なりと信ずるを以て、その境内の安寧を欲し、秩序を重せんとす。是により公租を多くし、私腹を養はん。とす。即ち正規法の徴税を行はざれば、私腹を養ひ難し。故に匪と名くる不正規法の徴税者を驅逐せざるべからず。是を以て官匪相容れず、その首長の私腹を肥すと、その徴税者の良民たるは官匪兩ながら別なし。故に官盛なれば兵、匪に克つ。官微なれば匪、兵に克つ。

官の家畜
匪の野獸

官の安寧秩序を尙ぶは民を愛するに非ず。自から愛するなり。人の鶏鴨猪羊を養ふは自から食に供せんが爲なり。民寧からざれば農商興らず。農商興らざれば公租入り難し、公租入らざれば私腹養ひ難し。故に私腹を養はんはんと欲せば、先づ民を安んせざるべからず。匪は是と異り山野に狩獵するが如し。野禽走獸多ければ獵者は是に集る。故に富市巨村先づその害を蒙

むる。獵者は野禽走獸を狩ると雖も家畜に及ばず。是を以て督軍以下官兵の駐屯せる大城を襲はず。官と匪と、その食に供するに、家畜と野獸の別あり。故に督軍以下地方の蟠居を廢さば、恐くは狩獵者の齧集する所となり。上海、杭州の如き殷富の地も三日を経て一掃空に歸すべし。或は恐る、春燕來るも集ふに家無く林木に棲まんのみ。

四 各省自治と聯省自治

督軍の黨
同伐異

既に督軍等地方に蟠居せば、その黨同伐異するや素よりその處なり、怪しむに足らず。往昔は中央政府の威令猶ほ行はる。故に督軍の任免は中央より下り、督軍等是を奉せり。今は然らず、東三省の張作霖の如きは論ずるに及ばず。浙江の督軍盧永祥の如きは、公然中央政府に反對するも、如何ともすべからず。南京の督軍齊燮元の如きは直隸派なりと雖も、必ずしも唯々諾々北京の命に服するものに非らず。北京政府の欲する所は別人あるべし。然れども齊燮元の地位を動かさんと欲すれば、泰山を動すよりも困難なり。今日の督軍等は、自ら戦に敗るゝに非ざれば、決してその地位を動すものに非ず。

藩鎮の禍

往昔、唐の衰へんとするや、藩鎮の禍あり。今正に藩鎮を生せり。唯だ唐朝は世襲し、今は然らざるのみ。然れども今日は時未だ淺く、督軍にして老、病、死に至るものなし。嚮きに李純南京に死すと雖も、今日の如く完全なる藩鎮を形成せざるを以て、終に齊燮元の手に歸せり。恐くは十年以内は世襲法によるに至らざるべし。

是を以て離合集散と黨同伐異紛々として起らざるなし。省の自治の如きは、その名美なれども、實是に副はず。米人を欺くに、米國各洲の獨立自治を以てし、日本人を欺くに、市町村の自治を以てするが如し。各省自治とは、中央より高官を任命せられ、公租を重くし、是を中央に輸し去るを防ぐの義なり。即ち各省の獨立により、公租を自省の外に出さしめざらんと欲するにあり。

各省自治
の正體

自治の要
と不要

然れども官に代ゆるに匪を以てせば、各省自治の實舉ると雖も、寧ろ官のや、良好なるに如かず。故に匪勢の盛なる地方は自治の聲自から微なり。匪は概ね省内の住民にして、匪首の不正規徵税と不正規保護は、各省自治の原則に大差なし。故に官盛なれば、各省自治の聲高く、匪盛なればその聲微なり。官と匪とその力の優劣により、自治の要と不要とを生ず。即ち住民等は租税の減せんと欲するを希望するを以て、他は問ふ所に非ず。その省の自治を稱ふるが如きは、自から高明達識なるを誇り、内外人を欺き而して私權の下に私囊を瘠せざらしめんとす。官は積極なり、租を以て私囊を増す。民は消極なり、租を拒んで私囊を減せざらしむ。その財を得んとするは、官たると、民たると兵たると匪たると皆一なり。その名稱により相異を生ずるものに非ず。

天下の愚
論

更に愚論を唱ふるは聯省自治にあり。一省すら如此く自治すべからざるは火を観るより明なり。焉ぞ多省と聯合をなすべけんや。督軍等の聯省の離合は恐くは行ふべし。自治による聯省の如きは、揚子江をして西流せしむるも、その期あるべからず。是れ米人に媚び、米人を誑かさん爲め米國の政體を模倣し、言を飾りて、ヤングチャイニース等の唱ふる所にして、米人の愚昧なるや、自己の建國と支那の建國と歴史の相異を知らず、漫然ヤングチャイニースに誑かさるに至る。我帝國に於ても、米國を崇拜せる徒輩の支那を談ずるもの亦是を唱へり。是れ最も笑ふべきの至なりとす。

五 中央集權は絶對不可

中央集權
の迷夢

如此く成るべからざる聯省自治を求めて、而も能ふべからざる中央統轄をなさんとす。その事の成るべからざるは必せり。百難を連れて是を同一の方向に進ましめんと欲するが如し。是れ統一を前提とし、中央の集權を認むる誤謬にして、英、米、日、佛の文明諸強國が、自己の國家に於ける根本義を前提とし、是を支那に適合せしめんとする誤より來れるものなり。

人面同じからず。色に五彩あり。味に五味あり、國家の組織焉ぞ一律を以て是を論じ去るべけんや。之に加ふるに最近元、明、清六百餘年、支那は統一せられたる國家の如き形狀をなせり。故に支那の歴史に暗き者は往

支那史上
の教訓

昔の事を知らず、支那は統一せられざるべからずと信せり。何ぞ知らん、周時には列國あり。その末期には戰國の七雄あり。兩漢の終るや、三國鼎立せり。是につき兩晋の間、十六國の興廢あり、南北六朝あり。唐の衰ふるや五代あり。宋之に代り興るも、遼、金と支那を二分せり。唯だ最近、元の統一より今日まで、やゝ統一の形狀をなせり。然れども明の元に代るや清の明に代るや、皆數十年の不統一の時間を有せり。今清の亡ぶや、是に代るに、中華民國と名ける曖昧なる國家を以てせり。民國興りてより一日も統一せられたる時なし、或は南に、或は西に、皆北京政府の命を奉せず。而も猶統一せらるべきものなりと誤信せり。是れ皆歴史を知らざるより來れる誤謬なりとす。

古より建興の君主は不出世の英雄にして、櫛風沐雨苦戰百回にして始め

幾何ぞ容
易なる

て支那を平定し、統一の治政を擧ぐ。中華民國と名くる曖昧なる國家に於ても、口舌の雄にして、櫛風沐雨せず、百戰の苦闘をなさず、贈賄により元首を贏ち得て、果して統一し得べしとせば、數千萬金を懐にせば何時にても支那を統一するに足る。然れば支那の統一は區々たる數千萬金の統一にして、是を以てせば破壊もなすべく、分合集散意の如くなるべし。世豈如此き容易なる統一あらんや。如此きは小邦と雖も不可能なり。況や支那の如き大邦にして、如此く區々の金錢により中央統一を爲し得るが如き理あるべからず。皆外國政府の根本謬想たる統一に迎合せんが爲に、金錢を賄し元首を贏ち得て、以て中央政府の形狀を具へ、外人を誑惑し去らんと欲するのみ。是れ今日の現狀なり。

外人は盲目なるを以て、欺誑し易し。支那人は自國の事情に於ては盲目

に非ず。故に欺誑すべからず。是を以て、東に、南に、西に、皆是に反對せり。加ふるに直隸派の中堅に於て、既に三派鼎立し、餓狗の肉を争ふが如く、政權を争奪せり。總統は金を塔し贏ち得と雖も、國務總理は金を塔し難きが如し。

今に至るまでその任命を聞かず。現に國に國務總理を缺くや、既に一ケ年に及びて猶今決する能はず。支那統一の如き本より論に及ばず。北京政府すらその統一をなす能はず。列國の使節北京に駐在し、日々その狀を目撃するに拘らず、猶統一を云ふは果して何の期する所ありや、疑なき能はず。蓋し使節は皆その國家に於ける英俊の士なり。必ずしも盲目に非ざるべし。而して猶是を云ふは不肖是に驚かざるべからず。

北京政府
何の狀ぞ

六 支那和平の根本策

列國使節
の迂論

最近、支那新聞の傳ふる所によるに、列國使節北京政府に勸告し、土匪の剿討を急にし、華府會議の意により、裁兵を行ひ經費を節し、以て外債を清還すべしと云ふ。是の傳ふ所果して眞ならば、不肖は口を開きて大笑せざるべからず。列國使節の英俊の士にして、如此き迂論を白日自から耻づる所なく公言するに於ては、聊かその理由に惑はざるべからず。

土匪勦滅
の策如何

土匪の勦滅は實に期せざるべからずと雖も、土匪は何の力を以て是を勦滅せんと欲するや。列國使節は孔子聖人を地下より喚起して、道德を以て是を教化せんと欲するや。孔、孟、老、莊、連袂是を諭すも、恐くは槍一技を棄てざるべし。最近我帝國船舶の四川に砲撃せらるゝや、船長殺害せ

法律道德
の無力

られ、船員捕虜となる。帝國領事急警を聞き、土匪の頭目に會し、釋放すべきを説く。土匪は巨金を要して止まず、帝國領事は之を諭すに國際法を以てし、説くに大義を以てし、外人の猥りに侮辱すべからざるを云へり。土匪の頭目の云く、國際法を以て論せんと欲せば、公等北京政府に行け、我は土匪なり、土匪は國家なし、内外人の別なし、我の欲する所は金錢なり、國際法に非ずと。帝國領事は我帝國の強力を背にすと雖も、一の土匪を勦す能はず、是れその實例なり。

土匪を勦滅せんと欲せば兵を用ひざるべからず。兵を裁して匪を滅せんとするは、馬足を縛して是を走らしめんと欲するが如し。兵を裁せば匪増し、匪を滅せんとせば兵を増す。是れ上來數ば云ふ所なり。若し夫れ國際法を以てするか、孔、孟、老、莊の道心を以て土匪を教化し得るに非ざれ

ば、兵を裁して匪を滅する能はず。列國の使節何によりて如此き矛盾せる愚説をなすや、疑なき能はず。兵を裁し、而も匪を滅せんとせば、盡く是を誅戮するに在り。匪を捉へて之を殺し、兵を裁し之を殺し、盡く送つて黄泉に赴かしめば、恐くは四境平安、路に遺たるを拾はざるべし。堯舜の治も是に及ばざるべし。列國の使節の云ふ所は此の兵匪合殺の果斷に出でんとするや、是又恐くは能はざるべし。所謂文化の假面を蒙むるを以て、恐くは如此き明快なる良策を敢行するが如き勇氣を有せざるべし。如此せば經費自から足り、外債亦清還すべし。

古來天下
統一の法

古來王朝の轉覆し革命の興るや、その終りに天下統一す。此時は必ず數百萬の生命を地上より地下に送れり。是を以てするに非ざれば統一なすべからず。和平望むべからず。是を讀むの人、恐くは不肖の云ふ所を暴論な

りとし、不肖を指して暴虐の人となすべし。不肖の暴虐たると仁慈たると問ふ所に非ずと雖も、不肖の云ふ所は決して暴論に非ず。不肖幼より支那歴史を讀み、列朝興亡の變は聊か之を知る事を得たり。是れによるに、列朝の革命の終末にこの大殺戮をなさざるは、一回も之を發見する能はず。この大殺戮を以て纔かにその太平を生せり。

二殺多生

數百萬の大殺戮は慘酷なりと雖も、數億の生命をして久しく困厄に陥らしむるは決して殘酷に非ずと云ふべからず。百萬は一億の百分一なり。四億は四百萬の百倍なり。通常都市の死亡率は一千分の十五より二十を前後す。然れば都市の通常死亡率と比するにその半に過ぎず。然れば冷靜に之を觀察すれば、特に大殺戮の殘虐なりと雖も、死亡者より之を見れば驚くべき數に非ず。故に古より建國の大英雄は一殺多生の大慈大悲により、凶

惡の兵匪數百萬を殺戮し數億の良民を安寧に置けり。是れ一を捨て、百を取らざるなり。一殺多生は大慈大悲に非ずして何ぞや。

今數を擧げて是を論ぜり。次に理を以て殺戮を加へざるべからざるを示すべし。

兵と匪とその質を同じくせるは上に數ば云ふが如し。兵も徒手遊食なり匪も徒手遊食なり。故に兵を裁するも農に非ず、工に非ず、商に非ず汝々營々何の處にか食を求むるの苦をなさんや。加ふるに習ふ所は殺人の技なり。その銃と云ひ砲と云ひ一として殺人の用に供せざるなし。而してその殺人の最も巧なる者、殺人の最も勇なるものを名けて將軍とし、萬人の崇ぶ所となる。兵營に於て農を習はしめず、工を習はしめず、商を習はしめず、寒至れば給するに衣を以てし、飢來れば與ふるに食を以てす。而して

匪賊殺戮
不可止

日々責むる所は殺人の方法なり。是に習熟するもの一朝營門を出で田園に歸臥せんとするも飢ゆるに食を給するものなく、凍ゆるに衣を與ふるものなし。而して習ふ所は殺人の技なり。剽盜劫掠に變せざらんと欲するも得べからず。故に裁兵の以後、所々に亂をなさざるもの稀なり。而してその勇に、その智に富める所謂將軍と稱するものにして、幸に建國の英雄に對し精忠の士は、錦を披き高門を開くと雖も、奸猾の徒は陽に伏して陰に背く。故に必ず數年の叛亂を以てす。彼等皆己の分を知らず。平原を馳驅せし舊時を追想し、馬上に天下を掌握すべしと妄信し、時の遷移するを知らず、建國の英雄に對し叛を圖る。是に於てその勦滅を蒙り、盡く誅に伏す。是の一時期を通過するに非ざれば決して平和を望むべからず。蓋し清朝の明に代るや、歴史上稀れに見る殺戮の少き興亡なり。然れども順治皇帝の

山海關に入りしより、康熙の末年の治平に至るまでの殺戮の總數は決して
一百万を下らざるなり。

現今に於ては、北京政府の如きは、區々の金錢を賄して總統となり、政
府を作り、元首の如き状態をなせり。到底この果斷の如きは夢想だに及ぶ
べからず。吳佩孚は武將なり、やゝ果斷を有するが如し。然れども徒らに北
に西に南に大兵を送り、土匪の勦滅の如きは漸く外人の口を防ぐに止むる
のみ。古三國の時、魏の曹操は不出世の奸雄なり。その蜀と戦ひ、吳と争
ひ、更に鮮卑を伐ち南伐北戦すと雖もその封境内に於ては民皆業に安んじ
毫も匪類の跳梁を許さず、是れ眞に雄の雄たるの所以にして、今の曹錕、
吳佩孚等の到底及ぶ能はざる所なりとす。錫も曹なり、操も曹なり、姓同
じと雖も、その相距るや天壤も比すべからざるなり。

奸雄曹操
の面目列國自ら
悔を速ぐ

北京政府既に如此し。而して是を逼まる外國使節はその爲すべからざる
を知りて之を云ふや、將又自ら之に代るの決心を有せりや。その能ふべか
らざるを云ふは、空論に非されば迂論なり。今日の外國政府の皆支那に盲目
なるが爲に如此き愚を敢てし、而も恥づる所なし。宜なる哉、その支那人
の悔る所となるを。

一大果斷
を要す

是に由りて是を見るに、裁兵勦匪は大果斷を以てするに非ざれば能ふべ
からず。然らば裁兵すべきか勦匪すべきか、何れが急なりや。不肖は論ずる
を俟たず勦匪の急なるを責めんと欲す。兵も匪も兩ながら良民を苦しむと
雖も、兵は正規なり、匪は不正規なり、兵は苟も政府と名くるもの、節制
に屬す。匪は放縱なる頭目の節制に屬す。兵はやや秩序あり、匪は然らず。
故にその良民を苦しむるや、匪更に兵より甚し。今裁兵を責めず、先つ勦

匪を責め、嚴に北京政府を責め、四境の出兵を禁じ、中原の勦匪に力を効さしめば、一年を出でずして中原安靜を得べし。京漢、津浦兩鐵道も亦安全運轉を得べし。

外債の清還と裁兵とは別問題なり。假に裁兵すと雖も、地方官吏に於て中飽横領を敢てせば何の日か外債の清還を得んや。不肖は増兵勦匪を第一期なりとす。

由來その病の因て來る所は統一を固守するにあり。是を固守するにより、百事その誤を生ず。裁兵然り、勦匪然り、外債の不償還然り、鐵道の保衛然り比々皆然らざるなし。

試に見よ、若し統一の用無く、東三省の獨立を容認せば、長城に於ける大兵は山東、直隸、河南に置くべく、四川獨立を容認せば、峽中に於ける

勦匪裁兵
自強成る

萬病の因

大兵湖北に移すべく、湖南、浙江の獨立を容認せば、その境に布ける兵皆安徽、江蘇の北に遷すべし。京漢、津浦の兩鐵道の如きは、南滿洲鐵道の如く安臥すべし。加ふるに兵士の亂入も亦生ぜざるべし。然れば自から勦匪の實舉り、裁兵の望亦行ふに足る。京漢、津浦の兩鐵道は支那政府の収入の大宗なり。之れを安寧ならしめば、自から収入増加すべく、収入増加せば外債の清還亦期し難きに非ず。

然るに外國政府は内政不干涉の名の下に獨立容認をなさず、力めて統一を云ひ、その行ふべからざるを強ひ、その爲すべからざるを望む。獨立容認にして内政干涉ならば、和平統一も内政干涉なり。内政とは支那の國內に關する事を云ひ、分離も合同も皆内政なり。分離は内政にして合同は内政に非ずと云ふ理なし。而して列國使節の云ふ所、列國々民の云ふ所、皆

列國空名
に囚はる

眞の内政
不干涉

和平統一を云はざるなし。是れ明かに内政の干渉なり。

眞正の内政不干涉とは、絶対に支那國內の事に對し一言も加へざるにあり。若し條約に違反せばその政府を責め、若し政府にして不確定ならば自ら保衛し、債權にしてその留保に不安ならば是を抑留し、債務不履行ならば是と比敵せる支那國有財産を抵押し、自己の條約上の正當なる權利を行使し、その善意たるを問はず、支那國內の事にして外國に連關せざる事に一言の勸告だもなさざるにあり。

日英米三
國の罪

而るに列國政府は此の明快なる條約權の行使と内政不干涉をなさずして、曖昧糊塗たる勸告の如き内政干渉を行ふ。是れ實に列國政府の外交上の大失敗にして、主として其罪、日、英、米三國政府にありとす。其他の諸國は、支那問題に於ては、多く三強國に隨伴せり。是れ上に云ふが如く三

強國々民の盲目なるにあり。その盲目國民の組織せる政府により、政策は支持せられ、その政府により訓令せらるゝにより、假りに北京駐在の使節に英俊の士ありと雖も如何ともする能はざるなり。衆盲の中獨り明ありとするも亦その用をなさざるなり。内政干渉と條約權の正當行使も全然別物にして、決して混同すべからず。

關稅增徴

徒らに匪
類の私服
を肥す

七 華府會議の失敗と米の責任

皆云ふ、中央政府財政枯渴し、政費百端擧ぐる能はずと、故に強固なる中央政府を造らんとせば、必ず鞏固なる財力を得ざるべからずと。是又列國政府の云ふ所にして、この言を利用し、支那政府は關稅增徴を列國に強要せり。

華府會議は嚮きに中華匪國の論に記せし如く、完全なる外國の失敗にして、是により支那の外交勝利を博し、引て列國は誑し易く欺き易しとなせり。而して關稅の增徴をなし得るも、決して中央政府の財政の充塞を期すべからず。支那に於ける海關及び鹽務は外人是を管理するを以て、清廉にして適法に收入し得べしと雖も、一たび收入し中央政府の手に歸せば、所

謂官匪、軍匪、政匪等の自由にする所となり、決して適法に支出さるゝものに非ず。外人は時に勸告するも、春風の馬耳を射るが如し。強ひて抗議せば内政干渉なりとし、國權侵害なりとし、到處排外を唱へ騷擾す。外國使節は得る所無くして失ふ所多きを以て、決して是を追窮せず。故に華府會議以來、關稅の增徴等所謂支那の主權を尊重せし事は、百事官匪、軍匪、政匪、學匪、盜匪等の爲にする所となり、外人は皆節を屈し恥を忍び、匪類にその利益を奉り、自からその魚肉たるのみ。而して支那の良民は決して利益を蒙むるものに非ず。關稅增徴の爲め輸入品は高價となり、支那の如き工業不振の地に於ては、必ず輸入品に待たざるべからず。故に良民も亦匪類の爲その魚肉たるのみ。加ふるにその增收により各匪類は皆收入を増加し、私權を強くし、益々良民を苦しめ、その膏血を吸收す。所謂華府

會議は外國と支那良民が各その利を割き匪類に奉り、自から進んでその魚肉たらんとする事を決定せるものなり。

如此き不明はその首惡實に米國政府にあり。而も之に贊同せる日、英兩國政府も亦責なきに非ず。佛、伊兩國はその責三國に比しや、輕し。米國政府を欺きしは政匪と學匪なり。この兩匪は所謂ヤングチャイニースの名の下に米人の不明を欺き、米人も亦その欺かるゝを知らず。是を日、英兩國に強制せり。兩國は米國の強大なるを恐れ、是に服従し、終に外人と支那良民をして匪類の魚肉たらしむるに至れり。

近時米國の國際間に行ふ事、一として失敗ならざるなし。嚮きに歐洲の大戦に莅て無賠償非併合の講和を唱へ、而も民族自決を以て歐洲の政局を糾紛せしめ、更に華府會議により、支那の匪類を助け、外人と支那良民を

首惡米政
府に在り劍を弄ぶ
狂勇士

苦しめ、その行ふ事、一として害あらざるなし。宛も剛勇の士の發狂して利劍を弄ぶが如し。米國の強大を以てして強て列國に干涉し惡事を遂行せしむ。その害の及ぶ所知るべからず。米國にして弱小の國家なれば、列國顧るなしと雖も、その強大の力を以て是を敢行す。その害の大なるや測るべからず。他日必ずこの懲罰を米國々民の甘受せざるべからざる時あるべし。古に曰く、俑を作るもの其後なからんかと。俑にして然り。況や實に人類を殺戮苦厄せしむるをや。因果の大理は決して米國のみを除外するものに非ざるなり。

八日匪親善

日支親善
の正體

如此く華府會議は外國人と支那良民をして匪類の魚肉たらしめ、匪類をして跳梁せしむるに至る。我帝國は米國に阿付追従し、自から卑め挽首低眉、進で匪類の前に叩頭起拜し、名けて日支親善と云ふ。日支親善とは善隣の誼を厚くし、唇齒の交を深くするの義なり。不肖常に唱へざるなし。然れども不肖の云ふ日支親善とは、支那の良民と親善を期するにあり。匪類と親善せんと欲するに非ず。今我帝國の一般に唱導せる所の日支親善は即ち日匪親善なり。我帝國の國民は何の必要ありて匪類と親善をなさんや。而るに我帝國の朝野盡く日匪親善を唱へ、各その及ばざるを恐る。匪類は坐してその奉る所の食を受け、傲然我帝國に臨み、少しく意に満たざれば

忽ち怒號し、排日と稱し、我帝國をして屈從せしむ。我國民は暴君の命を奉ずるが如く鞠躬如として匪類の前に叩頭せり。

盜匪學匪
手法一也

支那内地の盜匪の富家を掠むるや、先づ主翁を縛しこれを裸にし熱鐵を烙し痛苦叫喚せしめ、その財を奪ふ。主翁は自己の生命を恐れ、唯々盜匪の命を奉じ、財を捧ぐ。今我帝國の支那の匪類に對するや、又如此し。排日の舉興るや、朝野愕然交々學生を尊崇し、是に衣食を給し、厚遇至らざるなし。而して學生即ち學匪等は決して是を徳とするものに非ず。盜の財を奪ふや、その主翁を徳とせざるが如し。皆曰く、學生を厚遇せざれば感情を和ぐべからず。排日は感情より來る、而してその主唱者は學生なり。宜しく厚遇せざるべからずと。而して米人のヤングチャイニースに欺かれ是れを遇するを美望し、唯その及ばざるを恐る。

然れども米人のヤングチャイニースに對するや、學匪先づ頭を米人に屈せり。然らざれば米人を欺く能はず。我帝國に於ては、我國民先づ頭を學匪に屈す。而して學匪は傲然増々排日を敢行せり。

師弟の禮儀顛倒す

盜に屈し財を與へば盜常に至る。學生の來り學ぶや、我は師なり、彼は弟子なり。弟子先づ必ず禮を師に執らざるべからず。支那は儒學の國なり。彼等學匪は無學狂愚なりと雖も、師弟の禮の如きはその一般を知らざるに非ず。彼等はその本國に於ては常に彼等の師たる政匪官匪等に對し完全に師弟の禮を執れり。然るに我帝國に於ては弟子先づ傲り、師終に禮を其前に行ふ。師弟顛倒し禮儀全く敗る。然れども我帝國は是により排日を緩和し得べし、親善を期すべしと信せり。故に衣食を給し住居を與へ、厚遇至らざるなし。

文化事業
養匪事業
業乎

最近北清事變の賠償金を支那文化事業に投ずるの議決するや、その大部分を以て支那學生の厚遇費に當てんとす。而も朝野皆是を贊同せり。不肖は數ばその無効有害なるを云ふも、毫も聞く所とならず、早晚是を實現すべし。是れ文化事業に費すに非ずして、養匪事業に充つるものなり。匪を養ふて何の處にか文化を得んや。匪を養はんが爲に外務省中に堂々十數名を列ぬる委員を要さんや。寧ろ直截簡明之を免除し、北京政府に與ふるを便なりとす。北京政府は適當に匪類に分配し、各其養ふ所となすべし。何を苦しみ貴重の時間を割き我帝國の高官の鳩首凝議をなす要あらんや。

如此く我朝野は日支親善を善隣の高誼なりとし、是を勉めざれば義に於て缺くる所なりとせり。現に今回の震災に於ても、數千の支那人を救濟し無償に是を本國に歸還せしめり。善隣の高誼盡さざるなし。震災を蒙むる

支人忘恩
斯の如し

ものは獨り支那人のみに非ず。他の外國人も東京、横濱に於けるもの皆同一なり。然れども我帝國の朝野は特に支那人に對し此恩を與へり。然るに少數の支那人の鮮人と誤認せられ殺害せらるゝや、囂々我帝國を罵り、再び排日をなさんとす。我帝國は素より殺害を看過せるものに非ず。支那人の言を待たざるも、國に法あり、決して寛貸すべからず。然れども支那人は我國法の發動に對し満足せず。盛に喧號せり。是れ日支親善の適例なり。彼等匪類は我帝國より恩を蒙むるも恩を恩とせず。自己の當然の所得なりとし、一たび意に満たざれば喧號す。

匪の良家を襲ひ良民を殺すも是を當然とし、良民一たび匪を殺さば、匪類は復讐と稱し一村を屠る。是支那内地に於ける常例なり。即ち匪は自己が良民より収得すべきはその當然の權利にして、良民の匪を殺害するは不

泥坊にも
三分の理も

當なりとし、一たび意に満たざるあらば、全村圍城燒土となさざれば止まず。我帝國の一般はこの狀を知らず、匪と民の別を知らず、民と交るを欲し匪と交り、日匪親善を欲して日匪親善をなせり。故に十年一日の如く排日を行はれ、我帝國は屈辱に屈辱を重ね、猶その及ばざるを恐る。是れ皆我朝野の色盲より生せる誤謬にして、不肖等支那に在住せるもの常にその非を鳴らすも、決して我朝野の聞く所とならず。鞠躬如として自ら進んで匪類の魚肉となり、更に進んで巨金を投じ養匪事業を起せり。不肖十年以前に於て常に是を憤慨せり。十年の憤慨は常習となり、今日に於てはその憤る所を知らず。我朝野の營々養匪拜匪をなすを見るも、殆ど異様を感ぜざるに至れり。

世に愚者あり、狐狸を崇拜す。識者皆笑はざるなし。然れども是を崇拜

するものは、狐狸は人類に禍福を自在に與ふる不可思議力を有するものなりと信じ、決して戯れに是を拜するものに非ず。識者之を笑ふと雖も、我帝國の郷黨皆是をなさざるなし。終に尋常視するに至る。不肖等の支那に在りて我帝國朝野の日匪親善を大義なりとし、養匪拜匪をなすを見るも亦如此し。我帝國の朝野は匪類を以て狐狸の如く禍福を與ふるものとせり。是れ半面の理あり。即ち禍は必ず是を與ふべし、福は決して與ふるものに非ず。若し夫れ勇者の來り、狐穴狸窟を掘り、之を燻し之を撲ち、その皮を剥ぎ以て裘を作らば如何。狐狸は決して復讐をなす力を有するものに非ず。狐狸を貴び之を拜するが故に、一朝その奉る所を怠らば、暗夜庖廚田園にその食を盗む。彼等は日々その食を人類より供給を受くべきものなりと信せり。而るに一朝是れがその缺く所となるや、彼等は必ず人家の附近

にその盜食を行はざるべからず。既に山野に竄居せる狐狸は決して人家に近づき盜食するものに非ず。匪も亦然り。匪を拜し匪を養はざれば、匪と我と關する所なし。我れ匪を拜するが故に、一朝是を怠らば、匪意に於て満たざる所以を生ず。古より牛馬鶏狗は人の食ふ所なり。狐狸豺狼は人の養ふ所に非ず。狗と狐とその形を同じくす。狼と狗と亦その形を同じくす。然れども狗は人に忠にして、狐狸は人に忠なるものに非ず。匪と人と共に双目一口にして別相をなさず。然れども人は交るべし、匪は交るべからず。人は養ふべし、匪は養ふべからず。

今、我帝國は猫犬を養はんとし狐狸を養へり。而して養ふ所愈々厚くして貧るところ益々多し。日夜營々その至らざるを恐る。日匪親善の大義は今日に於ては尋常事にして、人の笑ふものなしと雖も、恐くは百年以後歴

史家の嘲笑する所とならんのみ。

匪類跳梁
に在り

九 列國養匪を競ふ

如此く日匪親善を大義なりとし、是を奉じ是を盡し匪類を養ふは我帝國なり。英國はやゝその趣を異にすと雖も、往昔の如く匪類を嚴罰するの勇氣なし。故に米、日、英は皆匪類の魚肉となり、養匪の事業殆ど完全に近し。是を以て支那全土を以て匪類の跳梁に委せり。古に曰く、六國を亡すものは六國なり、秦に非ず、秦を亡すものは秦なり、漢に非ずと。實に至言なり。今日の支那をして匪國たらしめしは支那に非ず列國なり。列國は競て匪を養ひ、支那四億をして匪たらしめざれば止まず。匪國をして民國たらしめんと欲せば、支那自身の覺醒啓發に依るべからず、必ず列國の覺醒を待たざるべからず。列國中首惡は米國なり、是に次ぐは我帝國な

り。英國亦之に次ぐ。三強國にして養匪事業を廢するに非ざれば、匪國をして民國たらしむべからず。

世に笑ふべきものあり。米人の常にヤングチャイニース等に對し云ふ所によれば、支那は青年の自發覺醒によりて改革啓發せられ文化に赴くべしと。米人自ら自發覺醒するに非ざれば、何の日か匪類を滅することを得んや。匪類滅せずして何の日か文化に赴くを得んや。如此く深く迷ひ、深く誤らるゝを以て、將來數十年、恐くは匪國を變ずる能はざるべし。支那四億の民衆は不幸の甚しきものなりとす。

然れども匪國の害、匪國の領土以内に止まらば、不肖等は内政不干涉を本義とし、別に論議するの要なしと雖も、常に我帝國の臣民を殺傷し、條約を蔑視し、不法の行爲をなすを以て、その匪類なるを知ると雖も、沈黙する能

米人愚論の一例

匪類類々我に及ぶ

はず。是れ許すべからざる大罪惡なりとす。匪なるを以て寛假する能はざるなり。今假りに我帝國領土以内に於ける養匪事業は愚人の狐狸を崇拜するが如く、笑ふべしと雖も、我國法を敗り、秩序を破るに至らざるを以て、姑く之を不問に付すべしと雖も、支那領土以内に於て匪國の實を擧げ、暴行を敢てするは、先づ是れが對策を定めざるべからず。

是の暴行たるや、その根源を曹錕、吳佩孚等に發せり。彼等は上に數ば云ふが如く、私權を張らんが爲め、無用の交戦を各所に起せり。是により中原に盜匪を生じ、他境に兵匪を生じ、中央政府に政匪を生ず。官匪、學匪は隨所皆然り。五匪並び起り、全國騷擾す。是を以て統一を本とし、是を承認し眞正政府となすが故に彼等官匪は正にその權を張り、愈々その武を用ゆるに至る。彼等の期する所は、先づ廣東の孫文を逐ひ、嶺南を併せ、四川軍を峽

曹吳實にその罪魁

中に暫く封じ、湖南を掃蕩し、而して大軍を長城に集中し、明春暖和の候を待ち、滿洲と決戦せんと欲す。その期する所果して中するや否や知るべからずと雖も、四境騷擾し、引て外人の厄を蒙むるや、必ず中す。假に彼等の期望を満すと雖も、決して是により統一せらるゝものに非ず。彼等は皆匪なり匪に忠君の大義なし。利あらば合し、利去れば離る。現に直隸派と云ふも、天津、保定、洛陽の三派を鼎立せり。既に君なし、何の處にか忠あらんや。忠君の大義を以てするに非ざれば、桀黠の諸將を結合する能はざるなり。請ふ看よ、兩晉十六國の歴史は是を詳細明白に證明せり。

統一の夢
より覺よ

一將の微なるや、他將の麾下に屬す。暫くしてその地を得るや、立ろに反す。甚しきは先に事ふる所の將軍を殺害す。現に今日に於ても、陳炯明は往昔孫文の麾下なり。而してその地位を得るや、忽ち反覆す。吳佩孚も曾て段

祺瑞に屬せりと雖も之に反せり。その屬するや、利あるを以てなり。その去るや、利あらざるを以てなり。故に假りに統一を得るも、恐くは和平は三月を出でざるべし。況や彼等の云ふ統一は夢想にして、餅を畫きて飢に充つが如し。故にこの夢想を贊助し、統一を期望し、その成らざる間に奇辱奇禍に甘ずるが如きは、決して外人の忍ぶべき事に非ず。故に斷然如此き夢想の統一に期望すべからず。

和平の鏡

不肖は數ば上に云ふが如く、支那をして分裂せしめ、幾多の獨立國たらしめざるべからず。若し夫れ獨立國たらしめば、その境土の範圍に於て和平安寧を得べし。

請看よ、今日の支那に於て最も和平安寧なる地方を指せば、先づ滿洲なりとす。現に滿洲は張作霖の配下に屬し、完全に北京政府に反對せる地方なり。外國政府の主權者なりと認むる北京政府の配下は、兵匪盜匪相繼ぎ騷擾すと雖も、その反逆者と認むべき滿洲政府の配下は安寧にして、人各その業に勉めり。現に外國商人も長江流域の騷擾に懲り、最近は皆滿洲に於て商業を營まんと欲せり。商人は利あらば行く。その主權の如何は問ふ所に

滿洲和平の活教訓

非ず。唯和平安寧に非ざれば利なし。是れ最好の適例なり。

而して滿洲の最も憂ふる所は直隸派の討伐なり。故に大兵を備へ、これに抵抗せんとす。是を以て境中の安寧は未だ關東州内に及ばず。關東州内は我帝國の治下なり。何人と雖も一指を染むる能はず。故に憂懼の用なし。精兵を屯すと雖も、非常の變に備ふるのみにして、是により境内を安靜ならしむる爲に非ず。境内の治安は警察により完全に維持せらる。今若し滿洲にして完全なる獨立國たらしめ、その境域を定めば、無用の兵を撤すべく、境内の不逞の匪賊を掃蕩すべく、政績日に擧り、治安維持決して關東州内と相異なるべからず。唯空文無用の統一の聲を恐れ、滿洲に於て、公然獨立國を唱ふる能はざるを以て、内外人皆その害を蒙れり。而して事實は決して北京政府の命を奉せるものに非ず、完全なる獨立國なり。而も交

統一の空名和平を妨ぐ

戰狀態を撤退せず、京奉鐵道の如きも、纔かに急行列車一回を直通せしむと雖も、他は皆山海關に於て兩分せり。是れ北京、奉天兩政府の交戦を熄めざるによる。即ち戦時の一時休戦の如し假に中華民國の名を以てする故に力強くば、奉天北京各その戦線を伸縮す。故に休戦の時あるも、和平の期なし。

若し夫れ兩獨立國たらしめば、猥りに兵を隣國に加ふべからず。況や今日に於ては國際聯盟あり、一般仲裁條約あり、戦を避くるの方法備はらざるなし。然れども中華民國と名くる境界不分明なる範圍に於ては、國際聯盟も仲裁條約も用ゆる所なく、強て外國是に容喙せば、名けて内政干渉と云ふ。而して如此く紛々雜々、内外人皆損害を蒙れり。

その原因を討ぬるに、その罪外國政府にあり。而も主として米、日、英

分裂獨立
の利章々々

禍なる哉
三強國

の三強國政府なりとす。今若し滿洲獨立を唱へんか、三強國政府は必ずその承認をなさざるべく、而もこの分離は支那の和平統一を害すと云はん。故に滿洲に獨立の意ありとするも、列國の承認を得ざるを恐るを以て、公然是を云はず、而もその實を收む。

三強國政府は皆奉天に領事を駐在せり。而して奉天政府の官憲と交渉するや、果して何の資格を奉天政府に認むるや、疑なき能はず。恐くは中華民國政府の地方官吏と云ふを得ざるべく、獨立せる奉天政府の官吏なりと云ふを得ざるべく、唯實力を有せる官吏の如き者と交渉せりと云ふに過ぎざるべし。

一一 列國外交の無標準

地方實力
派の承認

往昔廣東の孫文勢力強盛なりし時に際し、廣東に於ける外國領事は、中華民國政府の地方官吏に非ざる不承認の廣東軍政府に公文を往復せり。然れども是を拒まば、領事の職務を遂行する能はず。名けて地方實力派と交渉せりと云へり。地方實力派なる交渉團體は、果して何の處にか存せんや三強國は素より文明國なり、國際法を知らざるに非ず。地方實力派なるは國家なりや否や。國際慣例は如此き曖昧模稜なるものを容認すべきや。地方實力派を容認せりとなさば、盜匪の大なるものも亦容認せざるべからず。如此き不可解の容認をなし、完全なる獨立國を唱導せんとせば支那の和平統一を防ぐものとなし、是れを承認すべからずとなせり。即ち正當なる

主權者となすは不可にして、不當なる主權者として存在するは可なりと云ふにあり。

暗形外交

如此く不當なる主權者として之を容認するを以て、地方の盜匪のやゝ大なる者も亦容認せざるべからざるに至れり。故に支那全國を擧げて實力あるものを容認せざるべからざるに至れり。各地麻の如く亂れ、北京政府の威力全く及ばざるも如何ともすべからず。耻を忍び、辱を忍び盜匪の跳梁に任せざるべからず。而も猶北京政府をして、正當なる支那政府なりとし、使節を交換駐在せしめり。

理に暗く
名に迷ふ

外國政府の行ふ所如此くして、事實支那の統一を妨ぐるが如くして、猶口に和平統一を云へり。外國政府は支那内地の騷擾は内亂なりとし、如何ともする能はずとし、地方の完全獨立は、假令其境域内の安寧秩序の維持

せらるゝも是を以て和平の妨害なりとし、承認すべからずと云ふ。その目易き理に暗く、その名に迷へるの甚しきに驚かざるべからず。是れ皆上に數ば云ふが如く、米、日、英三外國政府の盲目より來る咎にして、この不明より生ずる損害は、外國人及び支那人齊しく蒙り、その不明より生ずる利益は支那の匪類獨り之を收むるなりとす。是れ上に云ふ華府會議の外人及び支那良民を苦しめ、支那各匪を益すると全く同一なりとす。三強國の盲目外交は實に如此き恐るべき災禍と罪惡を醸せるものなりとす。

試に問ふ。境土の分裂獨立は果して罪惡なりや利益なりや。往昔歐洲大戰の終るや、民族自決の名の下に、東歐洲及西アジアに幾多の小國を強て分裂獨立せしめり。此の時の主唱者は米國にして、贊同者は英、佛、日、伊の諸國なり。而もその分裂たるや、彼等自らその實力を以て分裂せしに

大戰後の
小國獨立

非ず。諸強國が地圖を案じ、恣に分裂せしめ、強て獨立せしめ、名を假すに民族自決を以てせるなり。故にデヨルチアの如き、アゼルバイシヤンの如き、アルメニアの如きは、強て獨立せしむと雖も、廢人を扶けて步行せしむるが如し。忽ち一蹶地に伏し終に立たず。ユクライナの如き強ひて佛國の支持する所となるも、その支持力の滅するや、遂に立たず。ヘヂャツズの如きは、今日猶英國の支持により、辛ふじて獨立せり。是を以て是を觀るに、東歐洲西アジアに於ては、分裂獨立は至當善良の行爲にして東アジアに於ては不當罪惡なりと云ふが如し。而もギリシヤの如きは、蔭に英國之を教唆し、トルコと開戦せしむ、その一敗立たざるや、英國は終に知らざるが如し。

國際信義
不可信

歐洲に於ては、諸強國は分裂獨立の外、進で他國を教唆開戦だも敢てせ

り。而して東アジアに於ては、獨立の實力を認むるも、その名を與ふるを喜ばず。而も盜匪の跳梁を許せり。我帝國も往昔烟霧の如き根據の薄弱なるオムスク政府なるものを承認し、大使を特派せり。大使のオムスクに至り未だ其公署を開かざるに、オムスク政府消滅し、大使は纔かに身を以て脱れ、漸くシベリヤの我駐屯軍の區域に歸れり。是皆強國政府の最近に行へる實例にして、外交善惡の標準、國際信義の基本、果して何の處にありや。不肖實に惑はざるべからず。是により諸外國は治せんとするを亂し、匪類を助け良民を苦しめ、有史以來數ば見るべからざる罪惡を敢てせり。

一二 列國と匪類擁護

五匪の患

匪類は惡人なり、此の惡を助け之を行はしむるもの決して善人に非ず。匪類暴惡なりと雖も、外國政府の之を助くるに非ざれば、その罪惡區域を大ならしむる能はず。故に云ふ、今日支那の最も憂ふべき惡人は五匪なりこの五匪を助け、惡を遂げしむるは諸外國政府なりとす。

匪類の自然淘汰

往昔王朝の顛覆し、革命の起るや、必ず今日の如く匪類横行す。然れども諸外國と名くる桀の惡を助くる非人道の惡人の存せざるを以て、自然に淘汰せられ、終に和平の期に達す。今日は然らず。諸外國と名くる惡人等の匪類を擁護せるもの、爲め、終に現状を持続せば、百年和平の期なし。

因果應報

然れども諸外國はこの匪類擁護の爲何等利益を得るものに非ず。寧ろ外

國人等は匪類の爲、甚しき損害を蒙れり。その損害を忍び、猶匪類の擁護に勉むるは、是れ盲目の致す所にして、目に明なくして、良匪の別を辨ずる能はざるなり。

官匪最も害大なり

諸外國は五匪の中盜匪のみを匪なりと信せり。何ぞ知らん、五匪中盜匪その害最微なり。他の四匪中、官匪を最大とすと雖も、官匪は匪に非ずして締盟國の政府なりと信せり。軍匪は米國の如きヤングチャイニースに欺れ、是を盜匪に次ぎ甚しく嫌へり。不肖も是を嫌ふは決して米人に異ならずと雖も、他の四匪の存在する限りは、獨り軍匪のみを滅する能はざるなり。政匪の如きは立憲政治家なりと信せり。學匪の如きは將來の支那を改革すべき最良の青年なりと信せり。軍匪盜匪の二者はその行ふ所露骨にして、盲目と雖も知るべし。他の三匪は上に錦繡を襲ひたるを以て其の真相

を知らず。故にその欺く所となり、その害、他の二匪に勝れり。故に官匪を尊び是に起拜し、學匪を愛し是を養成せり。

和平の計別事なし

匪を尊び、匪を養ひ、終にその匪等の爲に損害を蒙り、而も猶ほ之を知らず。宛も人の酒色に溺るゝが如し。酒色の生命を戕ふを知らざるに非ず而して酒色を愛し、終にその身を敗る。是れ即ち今の外國政府の、官匪、政匪、學匪を敬愛する所以なり。今毒藥を執り、是を人に薦めば、人は決して之を食はず。その毒なるを知るを以てせり。酒色を以てせば、百中九十九は是を受けざるなし。故に外國は軍匪、盜匪の毒藥を避くと雖も、官匪、政匪、學匪を避くる能はざるなり。若し今五匪の由て起る所を察し、是を遠け是を滅せば、和平の計立ちに成るべく、支那四億の良民皆その業に安じ、外國も亦安全に商業を營むべし。是を行ふは唯分裂獨立ある

のみ。

能官一轉
即ち巨匪

請看よ、官にして匪たるは、自己の私權を張らんが爲なり。官と匪とはその文字の義を異にす。自己の職權を正當に行使せる官は、決して匪に非ざるなり。今吳佩孚の如きは、桀猾の巨匪なり。然れども若し其職の命ずるが如く直隸、河南、山東の巡閱使を完全に職務とし行使せば、能官にして決して匪に非ず。然るに四川と事を構へ、湖南と釁を開き、更に現に安寧秩序最も完全なる江南浙江を覬覦せんとし、嶺南に孫文と争ひ、望達し事成らば大兵を東北に用ひ滿洲と輸贏を決せんとす。如此き事は直隸、山東、河南の巡閱使の正當職權に非ず。皆越權の不當行爲なり。この不當行爲により、能官變じて巨匪となる。若し夫れ直隸、山東、河南の三省にして獨立國となり、諸外國と締盟せば、吳佩孚にして假に私心を恣にし、奸雄の

資を以てするも、漫りに四川、湖南に兵を用ゆる能はず。嶺南の孫文も亦吳佩孚討伐を題目とし、北上を望む能はざるなり。

一三三 先づ滿洲の獨立を望む

非分濫權
の本源

人各分あり、各權あり、これを踰越すれば非分濫權を生ず。非分濫權は罪惡なり。今支那全土糜亂し、奸雄は各非分濫權をなさんとす。是を以て天下騷擾す。故に非分濫權の本源を杜塞せんと欲せば、疆域を分裂せしむるにあり。然れば假に政匪の如き匪類の國際間に於て往來すと雖も、今日の如き慘禍を生せず。現に歐洲に於ては政匪なきに非ず。英、佛、米、伊、白等の諸國を縦横すと雖も、漫りに攻戰掠奪の慘を生せず。政匪の害や、小なり。軍匪は素より正規兵となり、秩序と防護の外その用なく、善良の兵たるべし。盜匪は自から疆域中にその影を没すべし。學匪の如き乳臭兒は警吏一喝せばその本業に歸るべし。唯政匪は容易にその跡を絶たざるべし。然れども上に云ふが如くその害今日より著しく減少すべし。

滿洲の地
勢と資源

不肖は先づ滿洲の張作霖に獨立せん事を希望す。滿洲は國土として相當の面積を有し、住民も亦相當の數を有し、野あり山あり、農産を主とすと雖も、鑛産林産亦少なからず。氣候寒冷なりと雖も、露國に比するに猶溫暖なり。而も現時治績日に擧り、防備の精兵亦封疆を維持するに足る。加ふるに直隸より武を用ひんとするも、決して勝算を有するものに非ず。長城以北の山丘、密林、原野等皆天然の境界をなせり。是を歴史に徴するに、漢時に一回中原より兵を遼東に進めり。曹操兵を用ゆるも遼東に及ばず。次ぎは唐時に太宗親しく遼陽を陥し、東朝鮮を合併せり。爾來今日まで遼、金、清、滿洲より出づるも、中原より入るに非ず。明時力遼東に及ぶと雖も、實は附庸となすものにして、真正の郡縣に非ず。古より守り易

く攻め難きの地なり。唯日露兩國その背後より之を攻略せば、立ろに陥落すと雖も、日露兩國は決して滿洲を攻略するの意志を有するものに非ず。故にその封疆の北、東、南の三面は安全なりとす。

加ふるに近來鐵道日に進み、支那本土は四國借款の紛糾以來一哩の新延長なしと雖も、滿洲は是を除外となせる爲遼西の沃野、日に開け、産物皆市に出で、居民概ね豊富なり。故に支那各地到る處、借款と貧窮とを聞かざるなしと雖も、滿洲獨り財に富み、未だ是れが嘆聲を聞かず。獨立の實日に成る。何を苦しんでその名を吝まんや。列國の承認と不承認の如きは既に論ずるの要なし。獨立の實舉らば列國は承認せざらんと欲するも能はざるべし。

決心如何
にあり

要は滿洲自身の決心如何にあり。古より人によりて事を成すものは敗る

獨立の實
日に成る

列國の力を借り獨立せんと欲するも成るべからず。その適例は、ユクライナ、ジョルジア、アゼルバイジャン等にあり。今滿洲にして完全なる獨立國として存在することを欲せず、依然中華民國の一部たらんと欲する時は、張作霖、王永江等の大官は、その名を暫く保境安民に借り、他日力を山海關外に出し、今日の吳佩孚の期する所を東方より行はんとする野心を包藏せるものと疑はざるべからず。財政の安固も兵備の整頓も皆保境安民に非ずして、關外出兵の用に供さんとするに非ざるか。若し然らば張、王以下の大官も亦今日の能官は他日の官匪たらざるべからず。

不肖は張、王以下大官の眞正の心情を問はんと欲するものに非ず。その行ふ所を見んと欲するなり。その良たると匪たるとは行爲に於て決す。眞正の心情は自から之を省れば可なり。他人是を忖度するの要なし。他人の

張王深思
一番せよ

知らんとし之を測らんとするはその行爲なり。良と匪と遙かに別あり。今日
日の如く良たれば、滿洲に至重の關係を有する我帝國は實に安全なりと雖
も、若し他日匪たれば、我帝國は豫め適當なる手段を講せざるべからず。
今日の河南の如き状態に南滿洲を置かば、我帝國は決して黙過する能はざ
るなり。張、王以下の諸大官は、不肖の言ふ所を容るゝと否とは素より隨
意にして、不肖も亦是れを容れしめんと欲するものに非ずと雖も、今日の
良、變じて他日の匪たれば、不肖は日本帝國の臣民として、決して黙視す
るものに非ざるなり。今日之を云ふは、他日の證憑たらしめんが爲にして
張、王以下の大官に不肖の言を進むる所以に非ざるなり。

一四 歸する所分裂獨立の外なし

若し滿洲
獨立せば

若し滿洲にして完全なる獨立國として旗幟を鮮明にせば、嶺南、雲南、
四川等その多くは之に倣ふべし。若し然れば瞬時は騷擾すと雖も、忽ち回
復し、和平を見るべし。若し如此くば、曹錕、吳佩孚等の大官匪も境を越
えて兵を用ゆるを得ざるべく、彼等も亦大國を作り、保境安民を誓ひ、巨
匪變じて能官たるべし。匪たると官たるとその境内の治亂により決するも
のにして、人種の別あるものに非ず。

皇帝は匪
首の尊號

漢の高祖皇帝、明の太祖洪武皇帝は完全なる匪徒なり。盜を聚め事を起
す、匪に非ずして何ぞや。而して天下に君臨するや、明君なりとし、又匪と
名けず。今日曹、吳は官匪なり。然れどもその疆封を定め、是を踰越せしめざ

れば匪を變じて官たるも亦難きに非らず。支那に於ては兵と匪と同質異名なり。然れば兵に長たると匪に長たると又同質異名なり。故に皇帝とは匪の最も大なるものにして、その行爲の善良なるものの上つる尊號なり。

外國、主として米國の期待せる共和主義の如きは、匪國に於てはその要なし。匪にして果して共和せば、匪として存在する能はず。匪とは他人の有する物を奪ひ、自か用ゆるものを云ふ。共和せば他人の有する各般の權利を尊重せざるべからず。如此は匪の最も好まざる所にして、匪の定義に反せり。故に匪は之を行はず。中華民國と名くる共和國にして、何の處に米人の期するが如き共和の實ありや。總統は金錢を以て買收せり。武力と金錢との相異は、武器の甲は鐵にして乙は銀なりと云ふに過ぎず。その金屬二者別あるも、買收たるや一なり。共和とは買收の義なりや、買收は

共和は匪國に禁物

獨り總統のみならず、皆然り。財に非ざれば武なり。鐵と銀との二者により共和國の事を期せんとす。米人等の到底知る能はざる所なりとす。不肖は獨立國の帝國たると共和國たると、鐵國たると銀國たると問ふ所に非ず不肖は日本帝國の臣民なり、支那人に非ず。その國の政體に於て耻づる所なく誇る所なし。不肖の知る所は唯我帝國の君主に忠たるのみ。外國の政體の如きは論ずるの要なしと雖も、その政體の種類により、境内の秩序、和平の程度に甚しき相異あり、故に多少の研究をなさざるべからず。

之を要するに、鐵たると銀たると問はず、之が首長たるもの完全に自己の領土内を安寧ならしめば足る。不肖は外國人なり、支那の内政に干涉論議するの要なしと雖も、外人の生命財産の安全と條約の履行に關しては十分に論議せざるべからず。

要は安寧に在り

共和成て
五匪起る

今日の賄銀共和國は最も外人に對し不利なる政體なり。是れ官匪政匪學匪等をして、軍匪盜匪と相競つて悪を行はしむるに最も便利なる政體なり夫れ物腐て蟲生ず。賄銀共和國成りて五匪競て起る。是の政體を用ひば他日分裂せる新獨立國も亦紛擾遂に止むの期なからん。

内外安定
の唯一策

不肖上來數千言、支那をして分裂獨立せしむるに非ざれば、支那良民と外人とを救ふ能はざるの理由を十分反覆説明せり。不肖は此の以上に冗言を列ぬるの必要なし。唯外國が不肖の言を容れ、盲目を離れ、統一の謬想を去り、支那が匪類の跳梁を惡み、速かに各獨立を敢てするにあり。此の事、不肖の勢力範圍外にして、不肖これを行はしむること能はず。若し夫れ不肖の言を用ひば、支那良民と外人と數億の生命の安全を得べく、不肖の言を用ひざれば、少數の五匪の喜ぶ所となり、數億の民衆は五匪の魚肉

たるのみ。自から行ふ所の結果は他人之に代る能はず。不肖は言を進むるの外、他を知らざるなり。

一五 國運の新興を期せよ

帝國臣民
に警告す

終に蒞み、不肖は更に我帝國の臣民に警告せんとする。

今回の震災はその損害大なるを以て、帝國臣民の大部分は震災のみを知りて他を忘れたるが如し。是れ非常の誤謬なり。この誤謬より生ずる損害は決して震災の如き僅々の物に非ざるなり。

復興より
寧ろ新興

震災は東京横濱を主とせる地方を破壊せりと雖も、他の諸外國を破壊せず。歐米印度等は何等の損を害りしに非ず。然れば此等諸外國と對抗し、産業を振作し、貿易を盛になすに非ざれば我帝國の國富を増加すべからず。此等の諸外國中、中部及び東歐洲は政治上に大損害を蒙れるを以て回復容易ならざるも、他は完全に活動せり。然るに我帝國々民は口に復興を云ふ

もその復興の由て來るべき財源を研究せず、口を開けば政府に依頼をなすのみ。假に復興をなし得るとするも、東京横濱が昔時と同一の觀をなすに止り、帝國の強盛を來せりと云ふべからず。不肖は寧ろ當面の急務は復興に非ずして新興に在りと信ず。都市の將來に於ける交通の如きは、此の非常時に際し、斷々乎として百年の計をなさざるべからずと雖も、美觀の如きは、力餘れば施す可く、力足られば廢するも可なり。

一事深憂

復興に關しては殆ど我帝國の主腦を網羅せるを以て、必ず最良の設計をなすべしと信ず。不肖の如く常に海外に放浪せる短才無學の者の言議すべき必要を毫末も存せず。故に此に之を論せずと雖も、復興を主とし、新興を忘るゝが如きは復興の事成る時は、既に世界の競争に落伍せるの時なり。是れ一に憂慮に堪へざる處なり。

舉國一致
の眼目

今日我帝國の一般の論調は、復興は舉國一致ならざるべからずと云ふが如し。是れ大に疑なき能はず。復興は東京横濱兩市民一致せば可なり。何を苦しんで全帝國の一致を要さんや。復興は全帝國を一致せしむべき程度の重大事件に非ず。眞實に全帝國を一致せしむべきは新興なり復興に非ず。今回の震災は東京を破壊せるを以て、是を人體に譬ふるに、顔面の破壊の如し。人の最も重ずるは顔面なり。然れども人の存するは顔面の爲に非ず。幸に大阪、神戸を破壊せられざるにより、内臓は健全なり。其他の地方も亦安全なるを以て四肢は完全なり。面部に繃帶し、十分に活動をなし得べし。然るに顔面の繃帶を醜なりとし、屏居し、これが回復を待つが如きは愚者なり。何が故に内臓四肢の健全により活動をなす能はざるや、是れ不肖の大に疑を懐く處なりとす。

災禍全身
に及ばず

一六 海外に投資せよ

海外企業
の利

最近我帝國の物價頗る高く、生活も亦他國に比し遙かに上位にあり。而も製品の原料は盡く海外に仰がざるべからず。然るに我帝國に於ける工業家は盡く内地企業を主とし海外企業を好まず。最近上海及其他に小許の紡績工場を建設するものあるも、微々として云ふに足らず。是を以て高價の原料と高價の工費を投じ、而も高率の金利を以てす、その生産品の低廉なる理あるべからず。而してこの生産品を以て諸外國と市場に競争を試むはその失敗するや必然なり。何が故に進で海外に企業せざるや。或は原料の生産地に、或は工費動力費の低廉なる地に於て企業せば可なり。何を苦しんで海路萬里を輸して我帝國內に來り、更に製品を作り、再び海を越へて

他國の低價の物品と競争するの要あらんや。而して競争を強ひて行はんと欲するを以て、品質を粗悪ならしむるか、然らざれば高價を以てせざるべからず。故に競争に勝利を得んこと絶對不可能なり。この競争の敗北は決して海外に於てのみならず、我帝國内に於ても外國品は滔々輸入し來り我製造者は皆敗走せり。唯纔かに關稅の保護により、やゝ生命を持続するが如しと雖も、現在の如きは關稅の障壁を越え外品は輸入し來れり。

朝野皆愕然として曰く、商工業を盛にし、輸出を獎勵せざるべからずと我帝國の同胞間に於てすら高價にして粗悪なる日本製品を用ゆるを欲せず況や外國人をや。故に口に單に輸出獎勵を盛にすと雖も、實は國內の輸入防遏の用にだも供する能はず。

最近震災以後は一時急激に輸入増進せり。皆曰く、貿易を盛にし、増々

輸出獎勵
の空念佛粗悪高價
の日本品

輸出を盛にせざるべからずと。果して何人に粗悪高價の日本品を購入せしめんと欲するや。諸外國は支那問題に對しては全然盲目なりと雖も、商品の良否に關しては決して盲目に非ず。支那人も自國の將來に關しては全然盲目なれども、商品に對しては兩眼その用をなさざるに非ざるなり。自國に於てすら是を欲せざる高價粗悪の商品を外國に轉賣せんと欲するが如きは妄想も甚しと云ふべし。

支那に排日の起るや、我帝國の朝野皆曰く、排日は大いに我帝國の貿易を妨ぐと。不肖是を聞くに半面の理あり、然れども他の半面は理に非ず。排日は支那のみにして、他國に於てせず。米國の如きは日本人の入國及び居住を排斥すと雖も、日本商品を排斥せず。濠洲、カナダ、南亞皆然り。然るに排日の支那に於て、暫く我商品の販路を失はゞ、他の諸外國に之を

邦人活動
の新天地

充つれば可なり。蓋し粗悪高價の商品は何國に於ても排斥を蒙むるものにして、決して致治上の排日貨に非ずして經濟上の排日貨なり。如此きは我帝國の朝野の執る所を誤り、經濟の原則を無視し、強ひて粗悪高價の商品を以て優良低價の商品と競争せんと欲するより來れるものなり。

故に不肖は切に我帝國々民にして海外に投資せんことを期望す。農に商に工に行く所にして可ならざるなく、南洋、南米、支那、歐洲、行く所として可ならざるなし。是によるに非ざれば、新興期すべからず。新興ならざれば復興も亦期すべからず。

過去數年不肖に書を寄せ南洋に移住を欲する者及不肖と業を共にせんと欲するもの、その數決して數百を下らず。不肖今日猶その返書に忙殺せらる

農工商す
べて可也

徒手空拳
は不可

然れどもこの數百書の中、僅々一兩通のみ資を挾で渡海せんと欲し、その投資の途を問へり。その他は盡く無資無産の人なり。地球上の人類の大多數は無資無産なり。徒手空拳天涯萬里の地に言語風俗の相異せる地に、その土着せる無資無産者と競争して、必勝の理あるべからず。故に不肖は堅く之を戒め、決して海外渡航を賛助せず。若し不肖の一言より漫然渡航し終に身を溝壑に轉ずるが如き事あらば、不肖その責實に輕からず。今日に至るまで、不肖一人の實驗によるに上に云ふが如し。恐くは海外居住若くは海外企業の前輩は皆不肖と大同小異なるべし。

海外は資を挾んで渡航し始めて本國に於けるより數倍の鉅利あり。不肖の經營せる蘭領印度ジャバ島の農園の如きも相當の利益を生せり。是れ資を投せしによる。不肖徒手空拳によりてこの農園を經營せるに非ず。若し夫

資本家畜
起の要

れ相當の資を挾んで不肖に問ふに深外投資を以てせば、不肖喜んでその投資の方法を示すべし。是に對し決して鄙吝なるに非ざるなり。然るに海外に於て最必要なる有資産者は、決して不肖の如き海外居住者にその方針を問はず、深く藏して帝國を去らず、最も不必要不適當なる無産者のみ海外に渡航せんと欲す。故にその事遂に成るの期なし。

無産者の渡航を欲するは、夏日暑を避けんと欲し轉移するが如し。陋屋櫛比の中、家を換ゆるも熱は涼に變せざるなり。有産者の渡航を欲せざるは寒を防ぐが如し。自己の資を以て暖を求めり。故に室を出でず。何ぞ知らん、南行千里寒を知らざるの地あるを。故に有産者は速かに故國を去り海外に出で産業に従事すべく、無産者は故國に於て節儉力行以て生産を計るべし。如此くば國富民豊かに、震災復舊の如きは昔年にして望み難きに非ず。

富者の途
貧者の途

一七 有産遊民の所置

我帝國に一種の遊民あり、この遊民は無産者に非ずして有産無業者なりこの有産無業者は盡く海外に放出せしめざるべからず。彼等は産を有するを以て、衣食の爲勞苦せず。然れども産を以て農、工、商に投じ、國富を増進することを知らず。或は恩給に、或は證券の利子により衣食せり。衣食は安泰なりと雖も、帝國の産業に毫も益する所なし。而して帝國內に於ける物資を消費するに至りては決して人後に落つるものに非ず。此種の有産遊民の放出地の最良地點は支那なりとす。

支那は現在に於ては、上來數ば云ふが如く、全國糜亂し商業困難なり。然れども物資低廉に、豊富に、居住容易なり。唯五匪の害を蒙り易しと雖

有産遊民
の放出地

上海は遊
民の樂地

も、上海の如きは絶対安全なり。不肖産をジャバ島に有すと雖も、住居は上海の容易なるを愛し此に居住せり。有産遊民の消費をなし得る金額は一定し、他の農、商、工の如く俄かに増進を望むべからず。故に殆んど同一の費額を以て毎年を維持せざるべからず。若し夫れ我帝國に住居せるより物價半額ならば、その剰餘は更に貯蓄し得べし。上海の如きは現に東京の半額を以て容易に愉快に生活をなすべし。有産遊民は何を苦んで東京焦土の間に高價を忍び、生活難を訴ふるの要あらんや。彼等は皆外國を見るや畏途なりとし、支那の五匪を聞かば、上海の如き安全地帯も鋒刃の下に在るが如く感せり。皆海外の事情に盲目なるによる。

この有産遊民は最も多く東京に居住せり。皆徒手費消費者にして、決して生産者に非ず。宛も蜜蜂の雄蜂の如し。唯蜜を吸ふを知り、蜜を採るを知

寄生種族
の罪惡

らず。密蜂は秋に臨みて雄蜂を逐ふと雖も、人類は慈悲心に富むを以て、有産遊民を逐はず。然れども帝國の物價を高からしむるに至りては、その罪決して免る能はず。無産遊民は之を強制し遊民たらしめざれば可なり。僅少と雖も力行により生産し得べし。有産者は假に強制するも力行をなすべき能力なし。若し能力あらば有産なるを以て決して遊民たらず、既に遊民たるは必ず力行し能はざるによる。

如此きは速かに上海に輸入し來り、我帝國の物資の消費を免れしむべし。彼等は皆相當の智識と教育を有し、而も有産者なるを以て上海に遊ぶも決して帝國臣民の面目を辱しむるものに非ず。不肖は喜でこの有産遊民の爲に東道の主となり、上海居住に十分の便宜を與ふべし。而して此種の遊民は決して滿洲に行くべからず。滿洲特に關東州は物價異常高價なり。我帝

江南江北
隨所可也

國と大差なし。上海の約二倍なり。決して遊民の快樂境に非ず。加ふるに氣候寒冷にして、一年の半は貴重なる石炭を燃焼せざべからず。上海は我帝國中部と同氣候にして、寒暑共に嚴ならず。特に支那趣味を欲するの人は南京、蘇州、杭州に住すべし。この三所は上海と等しく絶對安全なり。而も物貨は上海より更に低廉なり。只支那語と支那事情に通せざるものは不便少からず。故に不肖は上海を以て最良の有産遊民の集合所なりとす。上海に於ては日本語のみを知り、他の國語を知らざる者なりと雖も甚しき不便なし。

一八 修學年限を短縮せよ

この有産遊民の外に學生と名くる無産遊民あり。同じく相當の考慮をなさざるべからず。我帝國は學問中毒をなせり。親の子に對するや、その將來を考ふるなく、その身體を考ふるなく、唯高等の學科を責むる事急なり而して幼より長に隨ひ、幾多の學校關門を通過するに従ひ、無用の競争と落伍を生じ、非人道の慘苦を嘗め、十餘年を費し贏ち得たる所は就職難の一語なり。是れ皆學問中毒の餘弊なり。

人生は學問の爲延長せらるゝものに非ず。學成るの時は多く人生の三分の一より半に近ける時なり。假に就職難ならざるも、その用をなすべき時間には生命の半に過ぎず。人命は貴重なり。一たび失ふて再び得べからず。

學問中毒
の餘弊學成る時
齡幾干

東京震災の横死者の慘狀を見て悲泣せる惻隱の仁人君子等は子弟の學校に就き人生の半を拋棄し無用の競争と勞力をなせるを獎勵し、之に歡喜せり是を以て是を見るに、我帝國の仁人君子は全死を憐み半死を喜ぶが如し。半死とは病者の如し。人の死を痛み、人の病を喜ぶが如し。その仁人君子の標準の測定の困難なるや、不肖の如き淺學短才の算法を以てする能はざるなり。

教育遊民

仁人君子の道德標準は姑く之を倫理學者に委するも不可なしと雖も、我帝國々民の半數がこの學生と名くる遊民なりとせば、此遊民を養育せんが爲他の半數は二倍の努力をなさざるべからず。蜜蜂の窩中雄蜂多ければ蜂窩必ず衰ふ。我帝國新興の機に際し、此教育遊民を處置せざるべからず。

この遊民は上の有産遊民の如く上海移住を以て對策たらしむべからず。

教育遊民は一定期間のみの遊民にして、一定期を過ぐれば遊民に非ず。故にその期間を短くするにあり。此の事數ば不肖論議すと雖も、學問中毒せる遊民獎勵論者たる我帝國朝野の容る所とならず、故に今猶大多數の遊民を存せり。この遊民は支那の學匪の如く積極的に害毒を流さずと雖も、消極より之を見れば、その害大差なし。

夫れ下等動物は一定期間に毒素を貯ふ。此の時之を食へばその多くは死す。人類は必ずしも一定ならずと雖も、遊民たるの時は有毒なり。人は遊食を許さず、遊食者は死するを可とす。生くる要なし。衣食する物資は皆他の勤勉者の供給する所なり。遊民死して國始めて富強なり。今教育遊民は徒手遊食にして、消極に物資を費消するの外、その多くは浮華に、淫蕩に、奇激に、放縱に、一として社會に害毒を流さざるなし。

遊民俄び
國始めて
富強

有害思想の支持者

今我帝國の有害思想の大部分はこの遊民等により支持せらる。無産者の有害思想の如きは、産を興ふれば決して久しく有害なるものに非ずと雖も此の教育遊民の有害思想はその身勞苦せず、父兄をして勞せしめ、唯消費するのみ。故に遊民たるの期間は全然有害動物たり。その消極たると積極たるを問はざるなり。是を以て是を見れば、支那の學匪と其兄弟を別つに困難なりと雖も、この對策は遊民たるの期間の短縮以外に別法なし、子弟をして及ぶ限り速かに實務に就かしめ、學校の課程は無用の學を廢し實用を主とし、その期間を短くするにあり。混亂矛盾せる道德標準を有せる仁人君子は不肖の言を容れざれば、自己の負擔に苦しみ、號泣するの時あるべし。

この遊民を時間より減少せば、残す所は無産遊民なり。無産遊民は強ゆ

新興の第一急務

るに力行を以てせば可なり。毫も憂ふるを要せず。職業的の惡思想者はゆるに國法を以てせば可なり。是又憂ふるを要せず。唯憂ふべきは遊民の横行なり。遊民を逐はゞ衣食必ず足り、物價必ず低く産業必ず興るべし。新興の第一急務は遊民を減ずるにあり、是を外にして策なし。最近皆曰ふ、勤儉力行せざるべからずと。遊民を放置して、その遊民に衣食住を供せんが爲に、勤儉力行せんと欲するや、不肖竊かに現今の我帝國の狀を見て、笑を禁せざるなり。桶に水を盛らば水滿つ。籠に水を盛らば水滿たず今遊民を放置し勤儉力行するは籠に水を盛るなり。故に不肖不遜なりと雖も、我帝國朝野の行ふ所を見て失笑を遏む能はざるなり。

滔々たる
惰弱の風

一九 天災と人災

最近人心浮薄に、怯情に、實に驚くに堪へたるものあり。皆曰く、今回の破壊を見て、人力の小ささを感じ、大自然の偉力に驚かざるべからず。甚しきは今回の震災を以て天譴なりとし、之を憂懼せり。世の宗教者、教育者も寒蟲の枯草に鳴く如き悲聲を放てり。不肖之を見聞するに、皆大丈夫の言に非ず。

人力は決して我帝國朝野の信ずるが如き微力なるものに非ず。今回の震災も亦決して大自然の偉力に非ず。地球より之を見れば寧ろ微力なり。天譴の如きは愚論なり。毫も憂懼の要なし。宗教者等の寒蟲の鳴咽は耳を傾くを要せず。

天災に非
ず人災

今回の震災は天災に非ず人災なり。震災の害は少許なり。有史以來我帝國のみを以てするも、これに數倍せる大震を數ば感せり。唯火災を警めず一炬焦土に歸せしめしによる。これ大自然の偉大に非ず。大自然は微力なる震災を行へり。而して強力なる人災是を助くるによりて大損害を生せり震災を以てするも、往歲甘肅、陝西の強震は東京以上に激動せり。クラカトア火山の五十年前噴火するや、その猛烈なる大自然の力は、決して今日の地震の比に非ず。

今回震災の死者は初め二十萬なりと云ふ。不肖も如此く信せり。最近の調査は漸減し、十萬前後なるが如し。十萬の死者は決して驚くべき多數に非ず。往歲の流行性感冒は、一舉十七萬の生命を奪へり。大自然の偉力に驚くが如きは、科學を知らざるより起る妄想なり。不肖の知友青柳榮司氏

科學無術
の妄想

は博學の達人なり。常に科學を唱導せり。氏は不肖と同一の論斷を下せり。天譴に非ずして人譴なり。人にして疎虞に慎まざるよりその災を生ず。故に人災なり。人にして行を慎み、警戒を嚴にせば火災の如きは生ずべからず。假りに滿都不燃質を以て家屋を建造せば震災起ると雖も火を失せず。火を失するも燃焼せず、可燃性の家屋を以てせば、火災は免れざるものと信せざるべからず。

偉大なる人間の力

然れば火災は家屋材料の燃と不燃とにより決し、震と不震とにより決するものに非ざるなり。火の燃ゆるは大自然の偉力なりとするも、是れに適當なる方法を以てせるは、即ち焔爐の下に石炭を燃焼せるが如し。東京の火災の全量に等しき火力熱量は、毎日蒸汽機關のボイラーの下に燃焼せられ、その結果は福となりて禍とならず。東京の破壊に大自然の偉力に驚き

天譴なりと想像せるものは宜しく蒸汽機關のボイラーを見るべし。人力は能く大自然と名くる曖昧摸稜なるものを利用せるを知るべく、憂懼恐悚の感想は消散すべし。

次に家屋の破壊を恐れれば、堅牢なる構造を以てせば決して破壊するものに非ず。汽車の客車の如きは日々數百哩を走行し、地震以上の振動をなすも、その破壊を聞かず。汽船も怒濤に簸翻せらるゝも破壊せず。然れば不完全なる脆弱なる家屋は震災ならざるも倒壊すべし。是又建設當時に分明なるものにして、その責建築者自身にして、決して天然の負ふ所に非ず。故に今回の災害は災害の日に始めて起りしに非ず。建設の最初に於て災害は必然逢着すべき事を豫知せざるべからず。故に之を指して天譴と云ふべからず。必ず人譴なり。人譴なるが故に甘受せざるべからず。その怯懦浮

自然を証ふる愚論

華の思想より自から省みることを知らず、茫然是を見て自失せるなり。而も事を復舊にのみ忙しく、新興を忘れ、自國のみを憂慮し、他國を顧みず國內の産業のみを保護し、海外の放資を知らず。遊民を養ひ有用の資を徒消す。第二の人譴遠からず之を襲ふや明白なりとす。

二〇 震災と諸外國

公私混同
の非

次に我帝國々民の考慮を煩はさざるべからざるは諸外國との關係なり。震災以後各國我國民の罹災に同情し、金品を救助せざるなし。是れ我國民の深く感謝する所なり。然れども是を以て國家の主張と混同すべからず。救済の美舉は各個人の仁慈より之を生ず。個人の仁慈に對しては深く感謝せざるべからずと雖も、國家の主張すべきを拋棄するが如きは、私を以て公を混ざるなり。個人の救済を蒙りしはその恩を個人に謝せば可なり。國家の存立を拋棄して是を謝するは感謝の道に非ず。支那の如きは五匪たりと雖も同情救済せり。唯學匪はその行ふ所甚だ僅少なり。彼等の大部分は人面獸心の輩なり。然れども五匪より救済を受くるが故に五匪の行ふ所を

是認せば、我帝國も亦匪類に同せざるべからず。如此きの理あるべからず。日支親善はなざるべからずと雖も日匪親善はなすべからず。

獨り支那のみならず、米に於ても、英に於ても亦然り。我國民は感情に動かされ易く、多く理智の明を蔽はる。今回の災害に對する救済同情に對しても、やゝもすれば理智を蔽はるが如し。是れ不肖の深く憂懼する所なり。然れども不肖は決して諸外國に對し感謝の誠意を滅却すべしと云ふに非ず。支那に對し今回我帝國議會の議員の謝恩として來遊せしが如きは實に適當にして嘆賞すべき所置なり。支那のみならず、米、英、佛等其他諸れに對しても如此き答禮をなざるべからず。距離の遠近を以て答禮に差を付すべからず。然れども是を混同し、理智を蔽ひ感情を以てするは大いに不可なり。深く慎まざるべからず。警めざるべからず。

二二 所謂新思想を排す

我帝國の現状はその國民の剛健質實を缺ぐより危険なるはなし。天災の如きは微弱なる損害にして恐懼するの要なし。物質上の損害を百億なりとするも毎年十億を贏ち得ば十年を出でざるべし。然れども剛健質實の風を失ひ浮華放縱に泥まば、永久に損害を増加するも滅却するの期なし。現在我國民の思想を見るに、一として剛健質實なるものなし。而して放縱より來れる懲罰は完全に享受せざるべからず。放縱の行爲に對し蒙るべき結果の如何は是を考究せず、單にその目前のみを歡樂せり。而してその結果の來るや悲泣せるのみ。

今我國民の大部分は深慮を缺くるが如し。各種の新思想を輸入し來るも

我が國民
の短所

是れ帝國
の憂患

新舊無用
の別

完全なる因果の大理に準據せるものに非ざれば盡く僞妄の說なり。その舊說と云ふも新說と云ふも說の新舊により善惡あるものにあらず。因果の原則に照して眞僞の別を知らざるべからず。眞說ならば是を用ゆべく、僞說ならば之を斥くべし。人に對し新舊の別を立つも亦然り。新人舊人を別てば嬰兒は最新人なり。世恐くは嬰兒の最新人の說を聞くものあらざるべし。之を見るに新人と云ふも新說を唱ふるもの、如く、之を以て思想家となすが如し。世に思想家なる職業なし。思想は各人皆是を有せり。然れば地球人類十數億皆思想家ならざるなし。然るに自ら思想家を以て任じ人亦是を思想家となすは、その大部分は僞說を唱ふる者にして、世を欺くの言なり。世豈無思想家あらんや。人の思想は苦を去り樂を求め、飢に食を欲し寒に衣を欲す。是を求めんと欲せば求むべき原因なからざるべからず。因無く

して何の處にか果あらんや。因を知らば果を見るべく、果を見れば因を知るべし。決して所謂無用なる思想家の冗辯を要せざるなり。

所謂思想家農に非ず、工に非ず、商に非ず盡く是れ徒食の遊民なり。此種の遊民を尊び實業を卑む。是を以て世人皆放縱浮華に陥り、質實剛健の風を缺く。世農工商の實業を尙び無用の口舌を斥けば國豊かに人富む。即ち上に云ふ苦を去り樂を求め、飢へて食を得べく、寒くして衣を得べし。思想は飢ゆるも食に代ゆべからず、寒きも衣に代ゆべからず。而も是を以て良民の膏血より生ずる衣食を消費す。即ち蜜蜂の雄蜂なり。此等無用の遊民は皆國の蠹害なり。新興の時は宜しく驅逐せざるべからず。世の宗教、教育、文學に従事するものは、大半この蠹害なり。

如此き思想家を撲滅し、藝術文學等の無用の遊戯を廢し、勤勉孜々實業

思想家無
用論

藝術文學
亦た無用

に就事せざるべからず。世人は恐くは不肖を指して最も没分曉なる者なりと云ふべし。不肖の没分曉たると曉了たると、不肖に於ては兩ながら關する所に非ず。不肖は唯因果を知る、不肖は苦樂の由て來る所。飢寒の由て來る所を知る。故に不肖は自ら思想、藝術、文學等の無用の遊戯を斥け農業に従事せり。不肖と論を同じふし行を用ふるものは、決して苦樂飢寒の由來を誤たず、身の安泰を期すべく、否らざれば飢寒困苦は必ずその身を襲はんのみ。

二二 因果の太法

實學振興
實業獎勵

世人の多くは藝術、文學等を以て歡樂となせるが如し。是れ歡樂に非ざれども、この謬想は一朝に抜き難し。宛も飲酒の如し。若し是を禁ずる能はざれば去て海外に遊べ。海外は皆亡國比連せり。歡樂遊戯の所少からず唯流連荒亡せば其身を敗るに至る。然れども一身を敗るに止まり、一國を敗るに至らず。我帝國內に於て遊戯を求めば、一國を擧げて皆敗る。事是に到らば崑岡の火豈玉石の別あらんや。故に不肖は固く帝國內に於ては無用の遊戯を廢し、盡く無用の遊民を驅逐し、實學を興し實業を盛にし、剛健質實の風を養ひ、放縱を嚴禁し、勤勉力行せしめば、始めて新興の實學るべく、國富民豊かに、皆歡樂を得んのみ。若し夫れ不當の歡樂を欲す

聖訓章々
大詔奉行

るものは去て海外の亡國に遊樂せよ。是亦我帝國に災せざるなり。

皆云ふ、最近人心動搖せりと、實に然るべし。因果の大理を規準とし、之に照さば決して動搖すべき理なし。是を忘れ偽妄の說に迷ふを以て動搖を免れざるものなり。今回我帝國々民は 大詔を拜受せり。是により叡慮の存する所を知り、國民の歸嚮すべき道を知る。我國民にして之に反せば違勅不臣の責を免る能はず。宜しく勤勉力行、剛健質實の風を養ひ、偽妄の邪說に迷はざるなく、臣節を盡し我帝國をして宇内に光輝あらしめざるべからず。是れ實に我國民の必ず盡さざるべからざる任務にして、是を忘るゝが如きは即ち不忠の大罪たるべく、之を省みざるが如きは必ず敗亡踵を旋らざるべし。重て云ふ、因果の大理は日本帝國のみを除外するものに非ざるなり。

(大正十二年十二月一日)

大谷師を紹介す

徳富猪一郎

海外投資に就て

大谷光瑞師講演

大谷師を紹介す

本篇は次篇に掲ぐる大谷光瑞師の講演に際し主催者國民新聞社長徳富猪一郎氏が演述した紹介の辭の筆記である。(編者)

蘇 峰 學 人

閣下並に諸君、本日は、大谷光瑞師の來京を機と致しまして、一場の講話を願ひました所、幸ひに高諾を得まして、皆様に御案内申上げましたところ、斯く多數御光臨下さいましたことは、私に於きましても、誠に辱なく存じ、又た本日の大谷師下——と申して宜しうございますか、閣下と申して宜しうございますか、私も何れが適當の言葉であるかと云ふことに

迷うて居るのでございますが、——が豫て蘊蓄されて居らるゝ所の點に就て、忌憚なき御意見を發表になるとは、會主である私にとりましても、亦皆様に於かれましても、いづれも是は會心のことであると存じます。で私は、此の機會に於きまして、少しく大谷宛下の事に就て、皆様の御清聽を汚して見たいと思ふのであります。

私が彼れ是れ大谷宛下の事を申上げるとは、甚だ僭越の至りであるかも知れませぬ。併し乍ら私は、長い間御懇親を辱なくして居るものでありますからして、豫て宛下の抱負の一端を承はつて知つて居るのでございます。宛下が——古い歴史でありますけれども——明治三十七八年の役に、如何に帝國の爲めに貢献せられたかと云ふことは、最早過去に消えて仕舞つた様でありますけれども、本日御光臨の紳士諸君は、定めて御記憶のこ

偉大な
師の
國家的
貢獻世界に
奇せる
功績
の
不
滅

と、存じます。其の天下の人心を鼓舞作興することに就て、又た宗教家として、大いなる日本に於ける勢力ある宗教團體の長として、御盡しになつたことは、非常なことでありました。私は此の點に就ても、國家が未だ大谷宛下の功勞を認むるに十分でなくはないかと、遺憾を感じてゐる程であります。(拍手起る)

それから是も皆様は略御承知であらうと思ひますが、宛下が中央亞細亞に探險隊を出して、東西文明の接觸點である所の、其の古い文明を、深き／＼砂の中から掘り出して、之を日本に持ち歸られたと云ふことは、亞細亞人の仕事としては、實に世界に向つて氣焔を吐くべきことであつたと信じます。(拍手起る)皆様も御承知の通り、佛蘭西にはベリオの事業があり英國にはスタイン博士の事業があります。併し乍ら英國のスタイン博士の

如きは、英國政府と印度政廳との後援の力を以てやつたのでありますから其の事業は偉大であり、其の成功は顯著でありますけれども、而も我が大谷宛下は、個人の事業として、數多の門弟を派遣して、敢てそれに對抗するとは申しませぬ、敢てそれに超越するとは申しませぬが、併し乍ら一個人の力としてやられた所の事は、實に吾々が眼を剝いて驚く程の事でありました。其の持つて歸られた所のものは、或は京城に在り、或は京都の博物館に在り、或は又た旅順に在る。諸方に散じては居りますけれども、兎に角中央亞細亞に於ける、此の發掘事業が亞細亞人としての、且つ日本人としての、而も一個人としての大谷宛下の成功と云ふものは、實に吾々の誇るべき所の事であると信じて居るのであります。世間では斯の如き事も矢張り大谷宛下の道樂とか、物好きとか云ふ様なことにして仕舞つて、其

の科學的に、學術的に、歴史的に、如何にそれが世の中に貢献し、又た貢獻しつゝあるかと云ふことを忘れて居ると云ふ様なことは、是は私の頗る遺憾とする所の一つであります。

私が大谷宛下に就て申上げて見たいことは澤山ありますけれども、今茲に餘計な事を申上げる必要はありませぬ。唯皆様は、宛下は世間の事は御承知でありますけれども、其の本領である所の佛教はどうであるか、と、或はお尋ねになるかも知れない。私は自分が佛教の事は分らないからして宛下がどの位の佛教の學者であるかと云ふとは、量るとが出来ませぬ。併し乍ら宛下の御著述になつた所の、大無量壽經義疏と云ふ著作なり、又は近頃出た所の「維摩經の註釋」を讀んでも、又は「第一義諦」として御演説の筆記の出たものを讀んでも、又或は過日國民新聞に掲載したる所の、

教學にも
超群絶倫
の
人

宗祖親鸞上人に就ての長い御論文を読みましても、其の讀む毎に、私にも分らない事が澤山ありますからして、分らない者が彼れ是れ批評をする権利はありませぬが、實に本職の學問に就ても超群絶倫の一人であると云ふことは、疑ふことは出来ぬのであります。

それと同時に狛下は、皆様御承知の通り日本人として、英國の皇立地理學會の會員に推薦せられて御いでになる御方であります。地理歴史など、云ふ方の學問に掛けましては、恐らくは日本に狛下以上の人が幾人あるか私も之を今茲に詳しく申し上げる程の知識は無いのであります。實に狛下の此の方面に於ける所の學問が、廣く且つ深いと云ふことを驚嘆して居るものであります。狛下が亞細亞の隅々に於ける所の知識は、吾々が銀座からして山下町に於ける所の知識以上と思ひます。何處の隅でも、何處の

驚嘆すべ
き博學と
精力

角でも、何處の國の何處はどうである、此處の所は斯うであると云ふことを克く御承知である。地理、歴史、天文、氣象、是等の事はもとより、其他植物若くは礦物、それ等の方の學問に就ては勿論、所謂漢學の素養に於ても頗る深厚と存じます。

狛下の文章に就ては、是だけは私も聊か批評する権利があると思ひます。皆様も御讀みになつた譯でありますから、所謂市に定價ありで、私が彼れ是れ申したと云ふことは、何等狛下の重きを爲すに足らぬのである。併し乍ら實に狛下の文章は文學界に於て一生面を拓いて居る。譬へば山野の枯れたる薄や茅の間に、大きな松の樹が生えて居る様な氣分のする、實に堂々たるものである。若しも狛下が、純然たる新聞記者にでも成られると云ふ時に於きましては、私共は飯の種が無くなりはいないかと心配して居る

文品高大
一世に卓
立活歩す

のである。(拍手笑聲起る)斯う云ふ様な譯でありまして、世の中では、西洋の事に明るい人は東洋の事に疎く、間口の廣い人は奥行が浅いと云ふのが常であるが、併し乍ら狛下は、和漢東西古今の事に通じて、而も廣くして深く、深くして廣いと云ふ様な學問をしてお出でになる。

そのみならず、世の中には萬卷の書を読むと云ふ人もあり、萬里の行を爲すと云ふ人もあるけれども、狛下は、萬卷の書を読み、萬里の行を爲して、冬から春に掛けては、日本から上海に御出でになる。夏になれば瓜哇に御出でになる。まるで世界中を年々歩いて御いでになる。吾々が逗子や鎌倉に行く様な量見で、一寸是から南洋に行つて来る、一寸北京に行つて来る、と云ふ様な事を云つて、世界中を恰も隣家でも歩く様に歩いて御いでになるのであります。其の知識の結果を本日、其の總てとありませぬ

萬卷の書
萬里の行

が其の一部分を御漏しになると云ふことは、皆様に於きましても、亦皆様を御招待致しました私共に於きましても、誠に此の上ない愉快であると存じます。是から狛下の御講演がありますから、一寸豫め私が狛下に關して考へて居りました所、知つて居りました所の、ほんの一部分を、御紹介の爲めに、甚だ蛇足とは存じますが、添へて置いた次第であります。(拍手起る)

海外投資に就て

本篇は大正十三年二月十四日、國民新聞社長徳富猪一郎氏主催の下に、大谷光瑞師が帝國ホテルに於て講演せられたもの、筆記である。(編者)

大谷光瑞師講演

一 緒 言

唯今蘇峰先生から、非常に長い、御丁寧な御紹介を蒙りましてござります。是から私が御話し申し上げますと、今迄先生が仰しやつたことが、皆嘘といふことになります。(笑聲起る)あの長いお話しの中に、一つだけ本當の事がござります。それはどう云ふ事かと申しますと、私が春上海から此邊

過夜致して
當らず

を歩き、夏は南洋に行き、毎年あちこちぶらぶら致して居ると云ふ事。是れだけは本當でござります。(笑聲起る)其他の事は、畏れながら先生の仰つしやる事が、どうも自分に事實とは思はれませぬ。是は先生の様な御記憶の宜しい御方でも、よく申します智者にも千慮の一失と云ふのは、斯う云ふことでありませう。(拍手、笑聲起る)

決して先生の御紹介の御言葉にあつた様な事は、毛頭ござりませぬ。唯だ始終歩いて居ると云ふことだけは本當でござりまして、是から私、明日此處を退去致しまして、一寸京都に寄りまして、月末に上海に歸りましてそれから二箇月程上海に居りまして、一寸又滿洲か北京に参りまして、六月になりますと又例年の如く瓜哇に参ります。是は参りませぬと飯の食ひあげになりますから必ず参ります。それから九月になりますと、北支那に

春は東洋
夏は南洋

参りました。又上海に歸ります。其の内に地球が一回轉致しまして、こちらに参る、斯う云ふ順序になります。是は毎年繰返して居りますが、元來家無しでござりますから、何處に居りまして同じことで、なるべく退屈せぬ内に動き出す様に致して居る。もう始終動き廻つて居りますと、一向面白くも何ともござりませぬが、是から、今迄に得ました結果を申し上げようと思つて居ります。

復興問題

何か東京復興の事に就いて話さないかと云ふことでござりましたが、是は私に話す資格がござりませぬ。東京の人にして初めて東京復興を談ずるの資格がござりませうが、吾々の如き、東京から見ましたならば外國人で決して本當の御話しは出来ませぬ。それはもうどうしても出来るものではござりませぬ。丁度亞米利加の人が日本の事を議論する様なもので、如何

に名論を吐きました様でも、必ず尻が抜けて居ります。私が東京復興を論じました所で、何を偉さうな事をぬかすと云ふのが大抵落になる。私は克う身の程を心得て居りますからさう云ふ不心得は致しませぬ。でまあ燕が往來する如く、雁が往來する如く、始終迂路々々をやりました結果でござりますると、是は毎年やつて居ります事で、毎年やつて居りますれば、如何なる馬鹿者でも聊か應へがござりまするから、之を申し上げようと思ひます。

二 海外投資の利

圓爲替下落を憂ふ

第一に申し上げますのは、昨年の大地震以來暫らくの間は、私共非常に憂慮致しました。其の憂慮の點は何處に在るかと申しますると、日本の圓の爲替が何等異狀を呈しませんで、四十八弗位の日米爲替相場を維持して居ります。是は尤も正金銀行が、少し無理をして耐へて居つたらしうござりますが、兎に角四十八弗を維持して居ります。私は多少瓜哇に資産を持つて居りますので、もう一番恐ろしいのは圓の下落でござります。是がどしどし下落致しましたら、今度は日本の滅亡と心得まして、一番此點を憂慮して居つたのでござります。尤も其時は瓜哇の田舎に居りましたので、三四日してバダビヤに参りまして、爲替の異動を知りたいと思ひまして、臺

灣銀行の支店と、正金銀行の支店へ行つて聞きましたが分りませぬ。併しそれは僅の間で、間もなく電信が入つて、爲替に異動が無いと云ふことが分りました。一時異動がある様な虞があつたけれども、其後勢ひを恢復して、異動が無いことになつたと云ふことを聞きまして、非常に安心致しました。

是れならば復興も出來ると、餘程の安心を以て上海に歸つて参り、それから滿洲に参り、彼れ是れ致しまして、十一月になりますと、丁度十一月の下旬頃から非常な悪い狀況で、四十八弗が四十七弗になり、四十六弗になり、四十五弗になり、遂に四十四弗と切り掛けて來た。是は誠に由々敷大事でござりまして、斯様に爲替相場を破壊される事は、國の信用を破壊されることとござりまして、是では到底復興も何も出來ませぬ。大變な事

國家的信用の破壊

になつて来たと思ひましたけれども、私は大藏大臣でござりませぬし、又日本銀行の總裁でも、正金銀行の頭取でもござりませぬので、唯だ思ふだけ何とも致し方が無い。併し憂慮したことは何れ位であるか分りませぬ。

それから色々の事件もござりました。政變があつて内閣も更迭致しました。漸く最近になりました、極く最近になりました、外債が成立し、爲替もどうやら四十六弗に盛り返したらしうござります。此の外債が成功か不成功かは知りませぬでござりますが、兎に角成立致しましたから、爲替も四十六弗を越すだらうと思ひます。思ひますけれども果して昔の通り四十八弗以上に上るか、或は四十八弗臺に行くかどうか、多少懸念を持つて居ります。尤も英國の英米爲替相場でも四弗三十仙幾らから四弗二十仙

回復の唯
一回の策
出奨勵

臺に落ちまして、大分出来は悪うござります。それに就きまして吾々の一番に考へまするは、國民として如何にして之を恢復すべきかと云ふことになりますと、どうしても輸出を奨勵するより外に方法はござりませぬ。消極的に輸入を杜絶さすといふこともありませぬけれども、是は或物の輸入は杜絶させることが出来ましても、或物の輸入は絶対に杜絶さす譯には参りませぬ。日本と致しましてはどう致しましても、積極的に輸出奨勵で行かなければ嘘でござります。

そこで積極的に輸出奨勵で行くと致しまして、私共近か歩きではござりませぬけれども、外を歩いて居つて直接に感じまするのは、日本品の下等で粗悪なことでござります。如何に日本人だと云て氣張つて見ましても、あゝ云ふ下等な物は、餘程の心得違ひの者でなければ買ひは致しませぬ。私

悪くて高
い日本品

共はなるべく我慢をして、日本品を買ふ様に致して居りますけれども、自分の懐ろ勘定から申しまして、どうしても悪くて高い物は、それが縦令日本人であつても買ふ氣にはなれませぬ。私共でさへさうでござりますから、他國の者が買はぬのは當り前でござります。斯う云うことになりましてのは、關稅政策も手傳つて居りまして、自國品以外の物に高い税を課しまする爲に、日本の悪い品物が割合に高くなると云ふこともござります。

殊に獨逸の製品が、獨逸では高くても爲替の關係で非常に廉い物が盛んに這入つて参りますから、此の爲に瓜哇の如きは、外の國の品物が綺麗に驅逐されて仕舞ひました。是れはいづれ一時的現象で、永久に驅逐されて居る譯でもござりますまいが、兎に角唯今は驅逐されて居ります。もう一つの支那では日貨排斥をやつて居ります。是れには大分事情もござりますが

獨逸品の
獨り舞臺

後で申上げることゝ致しまして、兎に角さう云ふ風に輸出不振になつて参りました。

田稼ぎは
一擧兩得

それに就きまして、此の頃でも頻りに堂々たる名家の御論説を拜見いたしますと、皆輸出を奨勵せいと書いてあります。輸出奨勵は宜しうござりますが、粗悪高價品の輸出奨勵では買ふ奴がござりませぬ。(笑聲起る)あゝ云ふ物は、初め一度はどうか分りませぬが、直きに買はぬ様になりませう。一遍買うたら懲りますから。さうかと申しまして、良い品を廉く賣るとで競争することは中々困難になつて参りました。それでござりますから、私共考へますのには、どうしても向うで儲けて、金で日本に送るより外はありません。從來日本の人口が過剰で、人間を外へ吐き出す工夫をしなければならぬと考へまして、色々云つて見ましたが、幾ら云つても吐き出し

ませぬ。それは吐き出さぬ筈だ。何故かと云へば、日本に居る方が利益が宜しいと申されます。併し乍ら、それには思ひ違ひがあります。

一例を擧げて見ますと、上海に斯くくの仕事がある。御前來ないかと申しますと、一體どの位の俸給でござりますかと聞きます。そこで月に餘計は遣れぬが、假に百圓遣ると致します。さうすると其の人は、私は日本では三百圓取つて居ります。上海へ行つて百圓では見す見す二百圓の損になりますから、まあ御免を蒙りませうと云ふことになりました。所が克く考へて見ますと、東京で三百圓で暮して居つて、三百圓貰つて居つたのでは、差引零でござります。上海で百圓貰うて、五十圓使へば、差引五十圓の得になる。上海ではさう云ふ計算が取れるのでござります。それでも内地の人は、使ふ方の事は何とも云はずに、貰ふことばかり云ひます。そして二

日本人の
思ひ違ひ

百圓でも三百圓でも貰つただけ費して仕舞うて何も残らない。況して、東京で三百圓掛るのに、上海で五十圓で済む筈がない。迂つかりすると一杯喰はされるから、減多に行かれないと申します。(笑聲起る)

併し事實はさうでないのです。上海でござりましたら、東京の半分以下で済むのでござります。私共東京に参りましたら、どうしても長くは居られませぬ。斯う云ふ物價の高い所に長居は出来ませぬから、用が済みましたらどんく退去致します。(笑聲起る)唯だ物價が高うても、金が餘計取れると云ふと聲が非常に宜しい。一日五圓とか七圓とか云へば随分餘計取れる様でありまして、五圓でも十圓でも、取れるだけ要つたのでは何にもならぬ。其處のパーセンテージの計算が日本人には出来ませぬ。

此頃でも地方の者が、東京に行つたら甘い仕事があるだらう、大阪に出

東京に長
居は無用

失業問題

たら何か好い仕事に有り付くだらうと思つて、寄つて参ります。併し探しても中々無い所に、何の當も無しに出て来て仕事の有らう筈がありません。失業々と云ふ。業が無いから失業は分り切つて居る。近頃失業問題が中々喧しうござりまして、斯う頻々と失業者が出て來ましたら、少しは出て行くだらうと思つて居りました處、矢張りそれでも出ませぬ。決して出ませぬのでござりますから私は、もう移民論は放棄致しました。

そこでも少し苦しうなつて、腹が減つても食へぬ様になり、寒くなりましても着ることが出來ぬ様になりましたら、どうやら出る様になるかも知れませぬ。それ迄は幾ら云うても行はれぬ様な愚論は吐かぬことにして、それよりも金を持って居る人のお尻を追ひ立てる方の名論に、此頃は變へました。(拍手笑聲起る)此の方は少々慾で釣ると出て來る。金を持って居

移民より
海外投資

る人は慾の深い人でござります。又慾が深くなければ金持ちにはなれませぬでござります。でござりますから、私のお話し申上げます海外投資は慾で釣ると云ふ事だと御承知を願ひます。若し釣られてお出でになりましたそれで損をしたらどうするかと仰しやるかも知れませぬが、それは其の御方のやり方が拙いのでありまして、うまくやれば必ずうまく行くと云ふことを、是から申上げます。

三 農業投資

農業は何
處でもで
きる

私は農業が自分の職業でござりますから、一番克く知つて居ります。工業、商業の方は自分でやつて居りませぬ。大部分人傳ての學問で、誤りがござります。農業の方は直接自分の頭に損得が懸つて参りますから、是は本當の事をやらんりませぬ。全體農業と申しますものは、何處でも出来るものでござります。尤も水の所は水産漁業になりますが、土の所は先づ何處でも農業が利きます。唯だそれには非常に土地に依つて損得がござります。併し何處にも只だ貰へるものがあります。それは植物を繁茂させる有力なる要素で、第一が光線、第二が温度、第三が湿度でござります。此の三つは何處でも金を拂はずに貰へる物でござります。三百六十五日の

只で貰へ
る三要素

間晝間半日は、私共只で光線を戴いて居ります。此の建物などは、何處からも光線が入らぬ様にして、是は餘り悪く云ふとライトから抗議が参るかも知りませぬが、此の天井を硝子にして置いたならば、只の光線が入つて参りまして、晝間電氣を點して斯う云ふ會を開くと云ふ様なことをせんで済むと思ひますが、御互ひに偉い人になると、明るい所を態々暗がりにして、そこに趣きがあるとしてあるのでござりませう。私共百姓は斯んなことにしては到底引合ひませぬでござります。で先づ第一に光線を戴く事、其次に温度が必要でござります。植物を育てますのに、一々人工で温めにやらぬ様ではどうもなりませぬ。物が生えますには、どうしても温度を戴かなくてはなりません。其の次には湿度濕り氣が必要でござります。岩と植物とは違ひます。岩は水が無くても宜しいが、樹はそれではいきませぬ。

私は嘗て滿蒙の農業を論じまして、滿蒙の如きは最も瘠せた下等な處であるとして申しました所が、馬鹿な事を云ふなと云つて偉い反對を蒙りました。實に怪しからぬ事を云ふ、滿蒙は肥沃の處である、と申さるのでありますが、私はさう思ひませぬ。それには理由がございますので、國民新聞に掲げて置きました。是は大分問題になると思ひまして、最後に御示教を仰ぐと致して置きましたが、大連へ参りますと毆られるかも知りませぬから、茲で何とか辯明を申上げて置かせよう。其の辯明は植物と云ふものは、光線と温度と湿度と此の三つが要ります。滿洲も夏の間は光線がござります冬も光線がござりますけれども、北緯四十度以北でござりまして、極く弱うござります。温度は夏で攝氏の二十五度位、是も極低い。雨量は七百耗から八百耗位、七月に一度しか降りませぬ。如何に土地が肥沃でも、分析

したら窒素磷酸加里を多量に含んで居りまして、植物の根が之を吸ひ込まなんだら何にもなりませぬ。植物は光線と温度と湿度の力に依つて、土中の養分を吸収するのでござりますから、此の力が無かつたならば、沃土も亦瘠土と同じ事でござります。是で申譯は立ちます譯で、毆られることだけは助かりました。

さう云ふ様なことでござりまして、是はもうどうしましても温かい所ではなければならぬのでござります。それで農業から申しますと、北緯二十度以南でないといふと甘く参りませぬ。小麦の様なものは寒い所で出来ませんが、是は特殊のものでござります。日本人の常食であります米なども、どうして北緯二十度以南でござりませぬと完全には出来ませぬ。日本人は少し粘い米を好みますから、熱帯の米を馴化させて持つて来て、日本米にしたの

農業適地
は北緯二
十度以南

で、本来は米は熱帯の植物で、現に其の原産地印度のアッサム州にオリザサチバの原種が残つて居ります。其の他の物でも農業は熱帯でやるのが本當でござります。

所が護謨でござりますが、是は大正三四年頃から、折柄の好景氣に乗じまして、馬來半島一帶に非常に澤山な護謨會社が出来ました。それが大正九年頃から日本の經濟界不況となりましたのと、護謨其物の生産過剰との兩方から、非常な打撃を蒙りまして、實に澤山ありました護謨會社が、大正十一年には殆んど皆滅亡して仕舞ひました。私十一年に廻つて見ました時には、息をして居る護謨園は少しよりござりませんで、殆んど皆死んで仕舞つて居りました。それが今日も其の儘になつて居ると思ひます。そんな事から護謨業は、逆も危険で資本は卸せないと思ふことになつて居る様

南洋の護謨栽培

でござります。

併し私共の見るところでは、護謨業も大資本を持つて掛れば、決して悪い仕事ではないと思ふて居ります。それは吾々の様な金を持たぬ者ではやれませぬ。何年か資本を寝かしてもピクともしないと云ふ位の大資本を投じてやれば、必ず甘く行くと云ふ事は事實でござります。現に大阪の大資本家で野村徳七と云ふ人が、大正六年に買はれたホルネオの護謨園があります。是は非常に大きな者で、あれ以來の悲況にも何等閉口せず、却て年々擴張一方でやつて居ります。私共模範の護謨園だと思ふて居りますが、大富豪が大決心を以てやれば、必ず成功するに極つて居ります。此の野村徳七氏は別でござりますが、大抵のものは、大資本と云ふ聲がして居りましたものも、殆んどバタ／＼潰れて、丁度地震の跡の様に、崩れた煉瓦塀だけ

大規模經營の利

が立つて居りました、中は空つぽになつて居ります。馬來半島の此頃を御覽になりますと、東京の地震を農業へ持つて行つた様な格好をして居ります。

資本家の
机上計算

何故馬來半島の護謨業が斯う云ふことになつたかと申しますと、先刻申上げました理由の外に斯う云ふことがござります。全體實業家の資本家に御百姓はありませぬ。大抵商買で御儲けになつた方が多うござります。唯だ株式會社にするか、合資會社にするかなされて、資本家で納まつて御座るから、實際の事が分らぬばかりでなく、農業の何物なるかを知つて居られませぬ。それは目論見書にはちやんと計算が載つて居りました、土地の價額が幾ら、草を抜く費用が幾ら、開墾が幾ら、植附が幾ら、肥料が幾らそして植付け年限が七年でござりますから、滿七年になる迄に是だけの肥

料が要る。そして愈々護謨が採れる様になると純益が幾らになる。一エーカー當りの幾ら、掛けるの一萬エーカー、イコールの何萬圓と、ちやんと金高を示してある。處程是は儲かると云ふのでやつて見る。やつて見ると却々計畫通りに行かない。

何故さう行かないかと申しますと、一寸日本には比較して申上げる様な地勢がござりませぬが、假に申上げますと、筑後川の沿岸で、佐賀縣の南の平坦な土地の様に、同じ地質同じ地形の處でございましたならば、一エーカー幾らに一萬エーカーを掛けて、其の通りに一萬倍が出て参ります。是が相模の奥の様な、丘陵の起伏して居ります所では、丘の高い所と中腹と麓のチメくした所とで、樹の出來工合が大變に違つて参りました。麓の水氣の多い處などは、樹が腐つて仕舞ひます。又丘の上では上の養分

目論見書
と實地の
相違

が流失して樹が肥りませぬ。さう云ふ様な地勢の検査に就ては目論見書に書いてござりませぬ。さう云ふ地勢の所で一エーカー當りの一萬倍が、事實出て来る筈がござりませぬ。それを株主参加を求める時には、一エーカー十圓の一萬エーカー、イコール十萬圓で、二割五分の配當と云ふ様に書くから、慾の皮の突つ張つた資本家は、其の二割五分に釣られて金を拂込む。先づ斯う云ふのが海外投資の今日迄の實例でござります。

まだ悪口を申し上げますと幾らもござりますが、土地の選定などに就ても殆んど實測してござりませぬ。それが重役などには少しも分らない。言葉は通じないし、地理は知らない。唯だぼんやりと何か甘い儲け仕事はないかと云ふ調子で、新嘉坡邊りのホテルに行く。一寸さう云ふ様な口振りでも見せますと、もう澤山のブローカーが押掛けまして、此處に三萬エーカ

投資家失敗の経路

ブローカーの餌食

ーのがある、此處に五萬エーカーの斯んな好い所があると云つて、出放題な嘘を吐いて金持を欺さうとします。資本家の方では其の内甘さうなと思ふ奴を行つて見る。汗を拭きくゞえらい所を自動車で走つて行きます。十萬エーカーなど、云ふのも澤山ありますが、十萬エーカーと云へば東京の一區分位な廣さがあつて、天を衝く様な大木が一杯に生えて足踏みも出来ませぬ。それを自動車の中から眺めて、どうです此の通りに樹が繁茂して居ります、土地の肥えて居る證據です。成る程と感心して聞きますが、斯う云ふ木は何處でも繁茂します、大木が繁つて居るから土地が肥えて居るとは申されませぬ。此の土地の廣きことは申す迄もない。さうだらう、それはさうに違ひない。どうです少し中へ這入つて御覽になりますか、云はれて中の方を見ると、一尺でも這入れれば大蛇でも飛び出しさうですし、蛭

はポトポト落ちて來ますから、もう是で十分よく分つた。それでは少し自動車で走つて見ませうと云つて、三哩程も走らされますと、もうすつかり閉口致しまして、もう澤山だ圖面はないか、ございますと云つて出放題な好い加減な圖面を出して見せます。斯んな圖面は私共でも直ぐに引いて見せます。唯だ定規を當て、線を引いただけのものでもござりまして、實地に測量したものではありません、それを皆やつて居ります。

斯う云ふ物を基にして事業をやつて成功する譯がござりませぬ。皆しくじるに極つて居る。海外投資の失敗の原因は、調査の不備と、最初の出發點を誤つて居ることでありませぬ。其の失敗を定規にして海外投資を恐がつて居るのが、日本の今の資本家の状態でござります。轉んだから道が悪いと云ふ様なもので、道が悪ければ氣を付けぬと轉びませぬ。斯う氣を付けて

成功する
譯が無い

歩いたら轉ぶことはござりませぬ。

私が海外投資を御勧め申上げるのは、利益が必ずあるからでござります。現に私が利益を得つゝやつて居ります。克く氣を付けて、十分に調査して掛れば決して損はござりませぬ。私が損をしてどうもならぬので、死なば諸共と引つ張つて行くのではありませぬ。(笑聲起る)私は決してそんな馬鹿なことは致しませんでござります。私共の買ひました時は、十萬エーカーなど、云ふ大きな所は買ひは致しませぬ。百エーカーばかりの所を、殆んどボーリングせんばかりに、自分で歩いて見て、すつかり調べてから買ひましたのでござります。それだから決して損は致しませぬ。又決して大資本を持つて行く必要もござりませぬ。百エーカーでも二百エーカーでも、兎に角十分に正確の調査をして、其の地形から、地質から、雨の降り工合

先づ十二
分の調査
を要す

是などは十年間の統計を取ります。それから風の吹き工合、其の邊は何年目に大旱魃があるかと云ふ様な、氣象上の週期の工合、其の附近の作物は何う云ふ状態であるか、地勢、風習、是迄調べて参りましたならば大丈夫でござります。唯だ隣りの護謨園が良かつたさうだから、甘く行くだらう金を出さう、是ではいけませぬ。海外の投資は必ず十分の調査をなさつてからやつて頂かんませぬ。

亞米利加は唯今世界一番の富強でござります。あの世界一番の富強は、あの結構な土地に、資本家が先に行つて、労働者と協同してやりましたから、あの國が立つたので、日本邊りでは、移民と云へば直ぐ、資本の無い人が移民するものと云ふ様に考へますが、是は大變な間違ひであります。資本のある人が未開の所へ行つて、それだけの事を致しますれば、必ず亞

米國富強
の活教訓

米利加と同じ様に行けます。

今度は農業に就いて、地理上の關係を申上げて見ませう。支那は農業に適した所は一箇所もござりませぬ。是は確言致します。滿蒙の如きは、農業地帯では決してありませぬ。滿蒙の農業に御資本を御投じになることはまあ御見合せなさることござります。左様、あの内で林業などはまだどうか分りませぬ。牧畜なども宜いかも知れませぬ。作物の方は、所謂通常の農業は、私は克う御勧め申上げませぬ。揚子江附近は通常農業が利きます。併し大きな地面は取れませぬ。私共ですら小さいと思ひますから、貴君方の様な大きな資本を御持ちの方には向きませぬ。あの邊は百町歩と續いた地面は取れませぬ。駄目でござります。近頃鹽田の廢つた跡を追ひ廻して居る者がありますが、是などは逆もいけませぬ。それよりも迂つかり

支那には
農業適地
なし

致しますと捕虜になつて賠償金を支拂はなければなりません。(笑聲起る)
先づ支那の農業は、現在の政治状態では見込がござりませぬ。政治状態が
變りましたならば、處に依りましてやれぬこともありませぬ。

それから南に下りまして佛蘭西領は、是は宜しうござります。先づ私の
考へまするに、日本の棉花栽培の敷地としては、メーコン河の兩側より適
當な所は無いと思ひます。まだあの邊には、日本の九州位の面積が手付か
ずに残つて居ります。之をやりますには三億位の資本は要りませう。先づ
二三億掛けましたら相當のものになりませう。農業でござりますから、さ
う大變な儲けはござりませぬ。併しまあ一億以上の金でありますと六朱
位のもので、それ以上は不當利得になりまして、暴利取締令に掛りませう
六朱五厘、多くて七朱も利益がありましたら結構だと思はなければなりま

佛領印度
適地多しメーコン
河の流域

せぬ。それ位の利益は大丈夫と信じます。兎に角メーコン河の兩側は、非
常に良い所ではござりますが、三四億の資本は入れなければ物になりませ
ぬ。小さい資本では寄り付けぬ所でござります。それはもう非常な未開地
で道も何もありませんから、道路を作らなければ何も出来ませぬ。海に付
いた邊りに少しは道もありますが、海から少し入るともう殆んど手が付け
られぬやうなところでござります。併し十萬ヘクタールから、二十萬ヘク
タールは樂に取れます、大分大きな土地でござりますから、之を開拓いた
しましたら、偉いものになります。

紡績聯合會の如きは、多くの紡績屋さんの御集まりでござりますから、
此處らに御目を付けて戴きたいと思ひます。去年のあの綿絲の不況で製品
の方は段々下つて來ます、原料の棉花は騰つて來ます。全體棉から出來た

棉花栽培
の有望

絲は、プレスに掛けて締め上げるのでござりますが、此の時は資本家、株主の懐ろがギュー〜、プレスに掛けられて仕舞つた。(笑聲起る)斯う云ふ時に自分で原棉作地を持つて居りますれば、締められるのは絲だけで自分の腹は締められは致しませぬ。何とかして原棉作地を得ようではないかと云ふことを、頻りに支那で計畫した人もござりますけれども、私も實は賛成致しましたが、併し逆も日本の入用の棉花の全部を支へるだけの原棉作地は、支那にはござりませぬ。滿蒙は素よりの事、緯度で申しましても不適當なことは分り切つて居ります。どうか致しまして、紡績の方の聯合資本に依つて、メーコン河附近に廿萬ヘクタール位の面積を作つて、英吉利が埃及でやりました様な完全な原棉作地にしたら宜しからうと存じます。あの邊ではカンボジアと云ふ種類の棉が適して居ると思ひます。で先

米作にも
好適地

づ棉作地としてメーコン河附近は宜からうと思つて居ります。けれども是は私共の様なケチなものが臍くりを、溜た様な金を持つて行つたのでは出来ぬのでござります。

それからメーコン河の流域で、水の浸り易い所は水田が宜しうござります。あの邊で出来ます米は柴棍米と云ふて、日本へ輸入されます。柴棍米と云ふものは、本來あゝ云ふ下等なものではござりませぬ。も少し上等の米があります。日本へ参りますのは最も下等なもので、日本で柴棍米と云へば下等なものと言ふ様に思はれて居りますが、あれは一番値段の廉いのを買つて来るからで、あんな米は柴棍あたりでは鶏か豚が食ふ位のもので、あの邊の人は克く心得て居りまして、鶏や豚の食ふ様な悪い米は、廉い物の好きな日本へ賣つて、良い米は皆マルセーユへ持つて行つて仕舞ま

眞の柴棍
米を知ら
ぬ日本人

すから、日本では上等の柴棍米を食べる事は出来ませぬ。上等の柴棍米は決して不味いものではござりませぬ。佛蘭西でライスカレーを召上つた御方は、柴棍米を食はされて御座つたのです。私共巴里で伊太利米ぢやと云うて食はされましたが、あれは皆柴棍米を使うて居るのでござります。それを日本の御方は知りませぬ。何でも米は日本米に限る。外國米と云ふと名を聞いただけでもういかんと云ひます。食べて見ていかんと云ふのなら分りますが、食べずにいかぬと云ふのは分りませぬ。それだから勢ひ鶏や豚の食ふ廉い米を食はされる譯になるのでござります。

そこで先づ米作地としては、メーコンの海に入る近邊が宜しうござりまして、是も十萬ヘクター位は良い地面があらうと思ひます。此の方は佛蘭西政府が道路を付けて居りますから、割合に其の方の資本は掛りますま

メーコン
河口の米
作地

いと思ひます。それに水が掛り易うござりまして、米作が樂でござります自分で瓜哇で米を作つて居りまする經驗から考へますと、初めはよくあんな廉い値段で米作が引合ふものだと思つて色々疑ひましたが、なる程採算が合ひます。瓜哇ではあんな廉い値段では合ひませぬが、柴棍ならば合ひます。

其のやり方を見ますと、雨期の始まります前に靱を蒔きます。苗代などは無論作りませぬ。唯だもうずつと蒔いて仕舞ふ。雨が降ると水が上つて來まして、一面の水田になつて仕舞ふ。ずるい奴はそれだけであります。少し勉強する奴が一遍除草をやります。勉強しない奴は、パーツと蒔いて放つて置きますと、水が上つて、草も餘計に生えませぬ。其の内に十月になりますと、水が引いて今度は地面が焼けますから矢張り草は餘計生えま

手で樂
な米作法

せぬ。十一月に收穫して仕舞へば、十二月一月は干田になる。斯う云ふ順序でござりますして、雜草を除く費用などは、今申します様に、水が一杯張りますと生えませぬし、水が引いて仕舞へばカラ／＼になつて枯れて仕舞ひますから、殆んど此の方の費用は要らぬ。肥料は水が只で持つて来る。金を拂はなければならぬのは、靱代、蒔代、刈代だけであります。あんな安い米とは永久に競争は出来ぬわいと私共は思ひました。(笑聲起る)

私共の所でやつて居ります方法は、矢張り苗代も作りますし除草も致しますし、内地の通でござります。皆様は一石四十圓の米を召し上つて御居での様でござりますが、私共は百斤に七ギルダ位の米で辛棒した方が得と思ひます。唯だ米が高い高いと云はずに、此處邊りで甘くて廉い米を作つたらどうかと考へます。併しまだどなたも米に向つては手を付けて居ら

柴棍の砂糖會社

れない。漸く柴棍で昨年の初めから砂糖會社が一つ出来ました。日佛製糖と申します。瓜哇で砂糖をやる場所はもうありませぬから、少し方面を變へて佛蘭西領へ入り込んだものと見えます。水田になる所でないと砂糖は出来ませぬものでござります。是は誠に結構でござりますが、米も少しやつていゝと思ひますのに、どなたも御やりになりませぬ。

暹羅には行つたことがござりませぬから、詳しく申上げられませぬけれども、メナム河の流域には良い處がある様で、殊にコーラットからメーコン流域に至る迄の間が、非常に乾きが強い。ドツと降つて、ドツと乾く處で農業には好くないと聞いて居ります。此處は私歩きませぬので確りした事を申上げられませぬ。

蘭領印度は私手を掛けて居りますが、此處は何でも來いでござります。

蘭領印度の木材

材木なども、今こちらではオレゴンパインなどが最も廉い爲めでありませぬか盛んに使はれて居りませぬが、スマトラ材、ボルネオ材には、煉瓦の代用に使つても宜しい様な、丈夫な堅い、そして廉い木があります、オレゴンパインの様な葦の代りの様な材木は、地震でなくとも、少し風が吹けば折れてしまひます。あれはどうも感服致しませぬ、どうしてあんなものではござりませぬ。あちらの木はチークの様な良材もありますが、そればかりではござりませぬ。軟かいのでも堅いのでも好きなのがござります。之に就てはスマトラ木材などをやつて居られる方がある様に聞いて居ります。

農業になりますと是も何でも来いでござります。是は本當の沃土で、作物は何でも良く出來ます。唯だボルネオでもスマトラでも、平坦な處は雨期に水が付きます。水の付く所は非常に不健康で、行つた人間は死な、け

恵まれた
る農業地

ればなりませぬから、計畫を立てる時には克く現場を調査して掛らねばなりません。けれども却々大きなものでござりまして、蘭領印度だけが七十五萬平方哩位、日本の三倍近い面積を持つて居ります。其の内〇・四位しか拓かれて居りませぬから、まだ日本の島を三つ入れた位残つて居ります。貴君方の様な資本を御持ちになつて、此の狭い所で色々な事を考へて困つて居られるよりは、此の邊へ御手を御着けになつたらどうかと存じます。

(拍手起る)

それからもう一つ申上げて置かねばなりませぬのは、熱帯の農業には養分を流されて仕舞ふと云ふことがござります。是のために初めてやりました時は非常にしくじる。よく肥えた土地だと思つてやつて居りますと、一雨ザツとやられますと一遍に流されて仕舞ひます。あちらの雨は逆も想像

恐ろしい
熱帯地の
強雨

出来ぬ程の強い雨でござりまして、當ると痛い様な奴が、二十四時間に五百耗と云ふ様な勢ひでやつて参りますから、どんな物でも洗ひ流して仕舞ひます。是ですつかり表面の沃土を持つて行かれて仕舞ひますから初めの計畫に非常な齟齬を來します。尤も地面の下は沃えて居りますが、上だけが瘠せるのでござります。さう云ふ事がござりますから克く調査しないで迂つかり踏み込みますと、今迄の護謨園の失敗と同じ様なことになつて、結局南洋はいかぬと云ふことになる。(笑聲起る)

先づ南洋
一見の要

そこで農業でありますれば、佛領印度、暹羅、蘭領印度、いづれでも宜しうござります。どうか手を着けられる前に一度見て頂きたいと思ひます。四十五日も六十日も掛る處では、大規模の計畫を立てなければなりません。いが、此の邊でありますと何でもござりませぬ。日本人の様に自分の國が

可愛くて離れられない人には、遠くへ出ることは難しいかも知れませぬが此處らは三四週間もありますと、行つて來られるのでござりますから、私は先づ近廻りとして、あの邊を御覽下さることを御勧め致します。

四 工業投資

工業は支那が第一

次に工業の方を申し上げます。是は私自分で手を掛けませぬので、農業の様に確りとは申上げられませぬが、先づ工業では第一に支那でござります。農業は駄目ですが、工業では支那が一番でござります。所で支那の工業品を支那に賣ることは御勧め致しませぬ。支那で造つた物を外に出すのならば安全でござります。支那と云ふ處は、勞銀が廉く、動力の廉い處で、此の頃上海でも石炭が高くなりましたが、それでもまだ東京よりは廉い。それでも滿洲は石炭で随分暴利を貪つて居ります。あれは會社ですから暴利取締令に觸れさうなものです。そんなこともない様でござります。坑から掘出した物を、あんな値段で賣ると云ふことは、怪しからんと云ふ様に

廉い動力

豊かな勞力

考へられますが、それでも矢張り動力は低廉で、分量も非常に多うござります。又勞力の方も、是は非常なもので千人でも、二千人でも、三千人でも立どころに間に合ひます。ですから支那殊に滿洲は工業に適して居ります。尤も原料品は、大連の外は滿洲及び北支の物を原料にしなければなりません。大連でありますと、神戸、大阪の工業と同じ事で殊に免税地でありますから、世界中から何でも持つて來て、之を加工して出せば宜いのでござります。

滿洲は工業地

唯だ是は大連又は關東州だけのことでござりまして、滿洲全體として、土産を加工することを考へなければなりません。所が滿洲は大正九年頃迄に餘り儲け過ぎまして、空手形を出したり致しましたのが、あの不況でガサツとなつて、手も足も出ず、身體も置けない様になりました。殆どまだ

死んだなりに復活は致しますまい。私は毎年行つて見て居りますが、満洲では満鐵だけが生きて居る。是は道がに四億四千萬圓の大世帯で、不況が來ましてもビクとも致しませぬ。が外の者は何も居りませぬ。併し是は滿洲が工業に適しないから斯うなつたのではない。私は何處までも滿洲は工業地と見て居ります。殊に撫順の石炭の如きは、此の頃餘計出る様になりましたし、あれは工業の原料としても宜しうござります。それから近頃は石油を撫順から出す様になりました。

撫順から出す石油は、一年どの位になりますか、まあざつと二三萬噸位と思はれますが、まだよく分りませぬ。仕事は明年位からとのことで、三年度は克う出しますまい。十四年度からか、ひよつとしたら十五年度からになるかも知れませぬが、出すとなつたらグン／＼出して参りませう。

撫順石油の好望

唯今世界で油田の争奪戦をやつて居りますが、日本で撫順を控へて置くのが一番安全でござりませう。樺太とか、秋田とか、新潟とかの石油を追ひ廻すよりは安全です。是は井戸から汲み出すのではござりませんで、オイルセールと云ふ石の中に含んで居りますのを、採收致しますのでござります。此の石は石炭の上に蔽はれて居る所の、粘板岩の様な、岩の様な一種の石の層でござります。之を露天掘りと申しまして、撫順では、坑を掘らずに上から土を除いて石炭を採つて居りますが、上の土を取ると此の石が出て参ります。之を取らぬと石炭が出て來ぬので、どうしても斯うでも之は取らんなりません。所がそれに石油を含んで居ります。斯う云ふ譯で採掘は唯でござりますから、餘程安く付く筈でござりますが、其の石に何れ位含んで居るかと申しますと、技師の話では、中等ので七、八パーセント、

良いのは十四五パーセントは採れる。極く悪いのが二、三パーセントだから平均して八パーセント位にはならうと云ふとでござりました。さう致しますると、百萬噸の石から八萬噸は採れる譯でござります。併し是は滿鐵其のものがやるので、外の資本家がやる譯に行きませぬけれども、拂ひ下げを願つたら行かんこともないかも知れませぬ。が、まあ小さな資本家では出来ずまい。百萬や二百萬の資本では、石から油が採れないらしいござります。是は先づ難しい。一寸話しが滿鐵に移りまして、餘談に亘りますが、滿洲の製油工業として有望なる一例を申し上げたのでござります。

それから滿洲の硝子工業、是は殆んど東洋無比と申しても宜しうござります。是は我が租借地の關東州内で原料を採るのでござります。皆様方の富豪の御家庭に御使ひになります、菓子器とか、かう云ふ水入れとか、皿、サ

東洋無比
硝子工
業の

ラドボール、シャンパンガラスなどに使はれて居ります。通稱カットグラスと申しまして、美しい色々な模様の切り目の付きましたグラス、是はチエツコ・スロバキアの都のブラークが本元で、昔埃地利領分であつた時代にボヘミアンガラスと呼ばれて有名なものでござりました。之に劣らぬ物が今滿洲で造られて居ります。是も矢張り滿鐵の仕事の一つでござります。そして其の原料は悉く租借地内で採れます。それから此頃は板硝子を造る様になりました。是は内地では鶴見の岩崎さんの工場で出来ますが、滿鐵で造るのは、内地で賣つては岩崎さんと競争になるからと云ふので、主として支那南洋方面に賣り出されまして、此方面で白耳義の硝子と大いに喧嘩すると云つて居ります。是なども只の石を火薬代位のことと採つて来て、只の汽車に載せて運んで、只の石炭で造るのですから、始ど只位で

賣つても宜さうに思はれますが（笑聲起る）併し随分高い金を取つて御座るから、是も當り前ならば暴利取締令に觸れべきものでござりませう。兎に角儲けても競争して行ける様で、石炭同様御利益があまりの様でござります。

是等は滿鐵が獨占する譯でもありませんが、併し大資本でないといけませんぬらうござります。硝子用の礫石は關東州の石が皆礫石と申して宜しいさうで、其中でも金州より普蘭店に至る間、此附近の石が良いと云ふとでありました。其他タルクとか云ふ様な、礫物を原料とした加工品がござりますが是は僅なもので、大きいのは石油の精製と、硝子とでござります。どうも滿鐵が餘り偉くて、外の人民がつまらぬものでござりますから、ついで行くことが出来ませぬ。滿洲では一にも滿鐵、二にも滿鐵で、御父

滿鐵會社の獨舞臺

山東は土匪の本場

さんが餘り偉くて、外の者は其の孫か曾孫にも當らず、漸く乳離れも出来兼ねる譯ですから、滿洲の工業は、滿鐵を除いては極めて振ひませぬ。次は山東でござりますが、山東も元は青島が盛んでござりましたけれども、今は駄目でござります。今はもう山東へ仕事に御出でになることはお留め申上げます。御損をなさるか、殺されるか、或は捕虜になるかでござります。土匪の研究に御出でになるのならば宜しうござりませう。山東の豪傑と云ふと水滸傳以來の名物でござりまして、漢の高祖以來泥棒の本場で金持には反對の場所でござりますから、皆様方の様な金持には御出でになることをお勧め申上げませぬ。

其の次は上海でござります。支那と申しましても、工業地は滿洲と上海でござります。滿洲では關東州も奉天もどちらも宜しうござります。滿洲

上海と紡績事業

の奥で奉天、撫順の外にはござりませぬ。次は上海で、此處は何でも來いでござります。丁度神戸、大阪、東京と同じく、支那の原料でも、外國の原料でも取込んで、之に加工して出します。唯今日本から行つてやつて居りますのは紡績だけでござります。紡績の方はなんでも十位は參つて居りませう。可なり日本の大きな紡績會社が行つて居ります。所が私共感服致しませぬのは、何故日本の機械を外して上海にお出でにならぬかと云ふこととでござります。採算すると儲かると仰しやいます。儲かるならば何故日本の機械を外して行けないか、それは何うしても出來んと仰しやる。何う云ふ譯か分りませぬが、大方儲かるとが御嫌ひなのでござりませう。(笑聲起る) 慾の少い御方は儲けることが御嫌ひで、矢張り孟買邊りから棉を買つて、製品はポイコットを食うて、原棉は高くなると云へば、唯だ不振だ

不振だと仰しやつて御座る。

此の中に紡績の方に御關係の御方が御出でござりましたら御許しを願ひまして、紡績屋さんの悪口を申し上げますが、吾々の算盤と紡績屋さんの算盤とは、まるで取り方が違ふ様でござります。私共にはどうしても紡績屋さんの御考へが分りませぬ。屹度吾々百姓の分らぬ所に妙味があると見えます。上海の紡績は今儲けて居ります。一時製品安で不振の模様でござりましたが、近來持直して參りました。どうも株主の懐の搾られ工合が内地の紡績とは違うて居るらしうござります。併し今の儘で參りますと、もう紡績は行止りで、是から上海に紡績を立てましても製産過剰でござります。唯だ是は支那を基礎とした過剰で、世界中に出すと云ふならば過剰ではありませぬ。全體從來上海方面へ出されました絲は、二十番位の太絲計

太絲時代
から細絲
時代へ

りでありましたが、此頃では支那でも二十番などと云ふ太い物は輸入せずとも造り出します。輸入せなければならぬ物は、皆四十番以上の細絲でござります。併し最早支那と雖も太絲の時代ではござりませぬ。今は細絲織布の時代であります。

所でそれすら排日でグットやられた。上海すらやられた。仕方がござりませぬ。さあ何所へ行くか。近頃何處か良い道はありませぬかと、私に御相談がござりましたから、百姓には商買の事は分りませんからと御断り申上げました所が、私共より商買人の御方の方が御考へが早うござりましてもうどん／＼外國へ出して居ります。亞弗利加、南亞米利加、埃及、メソポタミヤ、亞細亞土耳其古などに盛んに出して居ります。上海でやりまして、支那に賣る量見では間違ひでござります。もう一步進んで外へ出す。

競争の相手は英國

日本の上海に於ける紡績業は、マンチエスターと競争して勝てるか否かと云ふことであります。何處で勝つか、石炭は上海が安い、勞銀も上海が安い、金利だけがマンチエスターより高い。所が技術と云ふ事になりますと、支那の職工では技術はいけませぬ。日本の職工も英吉利の職工には敵はぬ位ですから、職工は日本から良いのを連れて行くと宜い。そして絲を彼方へ持つて行つて引つ掛けたり、此方へ持つて来て引つ掛けたりする様な仕事は支那人にやらせて、あのぐる／＼廻つて居る、難しい所は日本人の良い職工にやらせれば宜い。それで宜しいのでござります。

所がさう云ふ譯には行かぬものらしいございまして、私共の考へる工場經濟と云ふ様な事は、其の道の御方には通用しない。違つた人種を同じ工場に使ふと、言語が通じないとか何とか云はれて私共の申上げることは

粗製品から精製品

御用ゐにならぬ。そして支那職工は不熟練で困る。日本職工は高くて困ると云つて御座る。餘程私共の考へとは違ふのでござります。兎に角もう支那も太絲の時代ではござりませぬ。日本の商人も、粗製品を以て世界の市場で競争しようと思ふなら量見違ひ、どうしても精製品で行きませぬと立ち行きませぬ。茲で生れ代つて、支那人でも何でも適當に使用して、是から英國人と世界の市場で競争する覺悟でやらなければならぬと信じます。亞米利加も工業では對手ではござりませぬ。亞米利加も駄目ではござりませぬ。

上海では紡績以外に、陶器でも何でも、往つて可ならざるはなしでござります。船も入つて参ります。此の頃上海の地面が高くなつて買ひ難くなつたと申しますけれども、東京に比べますれば、東京の一坪が上海の二十

上海の二坪と東
京の一坪

坪に當ります。一寸遠方へ行く覺悟でござりますれば、坪一圓二圓の所があります。東京で一圓二圓の處がござりましたら、今日即金で戴きます。恐らく此の界限でそんな安い所はござりますまい。海の中にでも入つたらどうか分りませぬが、海の上に龜の甲良程でも出しましたらもうそんな事では買へませぬ。上海にはまだそれが幾らもござります。尤も町の中にはござりませぬけれども、近い所には澤山ござります。それでござりますから、まだ家庭的の小さい工業から、非常に大きな何千萬圓の工業に至る迄、大小取り交せ何でも來いでござります。

大連は色々の事情に制限せられて、何でも來いと云ふことは出來ませぬが、上海ならば何でも出來ぬものはござりませぬ。温度も日本と同じ位で乾濕の度も似て居りますし、支那人の妨害もなく、此處には動亂もござり

事業經營
の安樂地

ませぬし、地震もござりませぬで、東京などよりは遙かに安全地帯で、私共の様な臆病者にはずつと住み好うござります。日本人には確かに仕事の仕易い處だと思ひます。香港、廣東は御勤め申上げませぬ。香港は水の無い所、廣東は謂れの無いポイコツトを喰はされる所、どちらも感服致しませぬ。香港は自由貿易の利益があると申しますが、香港に行く必要はござりませぬ。

ずつと飛んで新嘉坡と瓜哇でござります。新嘉坡の工業と云ふことになりますと、此處は税金の掛らない所でござりますが、労働者に乏しい所でござります。労働者も無いことはござりませぬが、農業労働者で、工業労働には使へませぬ。ですから労働者の多く要さない仕事ならば、無税でござりますから、外國から原料品を輸入してやると云ふことなど宜しうござ

新嘉坡の工業

ります。

瓜哇島の勞力

之に反して労働者を使ふに便宜な處は瓜哇でござります。此處は支那よりも勞銀が低廉でござります。私共農業の労働者に支那人を使ひますと一日弗の四十仙で日本の貨幣に換算致しますと四十二三錢に付きます。是で朝から晩迄一日働きます。所が瓜哇の人間を使ひますと、一日ギルダの三四十仙、日本の三十二錢(一ギルダ一貨八十錢)で済みます。それだけに支那人は力が強く瓜哇人は力がありませぬ。結局能率の點から申しまして支那人の四十錢の方が得でござります。瓜哇人二人使つて六十四錢拂ふよりも支那人一人に四十二錢を拂ふて却つて得な場合があります。瓜哇の女はもつと安く働きます。力の要らぬ仕事には是も便利なことがござります。例へば私共で草取りに女を使ひます。砂も土も固くござりませぬから

和蘭政府
の工業家
歓迎

草などは極く容易に簡単に取れます。力の要らぬ紡績の女工などには宜しうござりませう。此の方は一日働いてギルダ一の卅錢位で済みます。

私は瓜哇は將來の優良なる機業地と思つて居ります。和蘭政府は此の土地を單に農業地に止むることに満足致しませぬ。更に一步進んで工業地にしようとして居りますから、日本人が此處で工業を始めるところを歓迎して居ります。其の位でござりますから決して吾々の起業を阻止する氣遣はござりませぬ。それで勞力を多數に要する仕事は瓜哇がよいと存じます。瓜哇の人は襯衣にサロンと云ふ一種の腰巻を着けて居りますが、此の腰巻が却々立派なもので、或る紡績の方の人に上海では是が出来るかと思ひました所が、出來んことはありませぬが、引合ひませぬと云ひます。何處で作つたものかと聞きますと、無論マンチエスターだと云ふことでござります此

將來有望
の機業地

の織布は瓜哇の人間三千五百萬人が必ず一枚宛は巻かなければならぬものでござります。一人一枚では濟みませぬ。三日にあげず洗濯もしなくてはなりませんから、一人平均三枚は一年に要りませう。それが三千五百萬人分でござりますから、日本人の商賣として決して小さい仕事ではござりませぬ。是は面白い事でござりますから、一つ申添へて置きますでござります。そんな事は別と致しましても、此處で立派に輸出工業がやり得ると信じます。殊に此の織布の方面で、マンチエスターを押へ付けたいと存じます。

一つ申し落しましたが、支那の所で生絲のことを申し上げなければなりません。之を落しては大事でござりました。生絲に就いては貴君方も御考慮でござりませうが、是は實に由々敷こととござります。現に日本

我が製絲
の大敵

の昨年下半年期の輸出の減じましたのは、主として生絲が出なかつた爲めでございます。是から日本の生絲が出ないと云ふことになりましたならば、日本の貿易は如何にして維持する積りであるか。大藏大臣もあれが出ぬとなつた時の事をお考へになつて居らぬと思ひます。將來も出るものと考へて居られると思ひます。是は由々敷事でござります。生絲の一番の御顧客は亞米利加でござりますが、此の亞米利加が浙江の絲に手を掛けて参りました。浙江は上海の南西に方る一省で、杭州と云ふのが其の中心でござりました。浙江の生絲は此の杭州に集まつて参ります。是に就ては、私數年來此處に手當をせられぬといかぬと申しますけれども、私の如き微力の者の云ふ事は却々御聞き入れがござりませぬ。御聞き入れにはならずそれで濟めば宜しうござりますが、其の内に亞米利加が手を掛けて仕舞ひまし

た。

亞米利加では日本から買ふより、此處から持つて行く方が安く行くのでござります。日本でも浙江の繭を買つて、乾燥して持つて來て、生絲にして亞米利加に賣つて居りますけれども、是は實に安心ならぬ事でござります。亞米利加に此處でグツとやられたら、日本の製絲家は全滅でござります。惹いて日本の貿易はピタツと止まつて仕舞ひます。是は國防と同じこととて決して忽がせに出來ぬ問題でござります。どなたに之を申上げて、まだ大丈夫だと仰つしやいますが、其のまだたるや、何を基礎としてまだであるか私共には何うしても了解が出來ませぬ。何の理由も無しに唯だ『まだ』斯う仰つしやる。

燐寸事業
の實例

現に燐寸の事で申上げたら早く御分りになります。以前は日本の燐寸が